

第 8 回 軽米町議会定例会 令和 6 年度 軽米町一般会計予算等審査特別委員会

令和 6 年 3 月 8 日 (金)
午前 9 時 57 分 開 議

議 事 日 程

議案第 11 号 令和 6 年度 軽米町一般会計予算

○出席委員（11名）

1番	田中祐典君	2番	甲斐鉦康君
3番	上山誠君	4番	西舘徳松君
5番	江刺家静子君	6番	中村正志君
7番	田村せつ君	8番	茶屋隆君
9番	大村税君	10番	細谷地多門君
11番	本田秀一君		

議長 松浦満雄君（同席）

○欠席委員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のために出席した者の職氏名

町長	山本賢一君
副町長	江刺家雅弘君
総務課総括課長	日山一則君
総務課企画担当課長	鶴飼義信君
総務課総務担当課長	松山篤君
会計管理者兼税務会計課総括課長 兼収納・会計担当課長兼課税担当課長	古舘寿徳君
町民生活課総括課長	工藤晃子君
町民生活課総合窓口担当課長	寺地隆之君
町民生活課町民生活担当課長	鶴飼靖紀君
健康福祉課総括課長兼福祉担当課長	小笠原隆人君
健康福祉課健康づくり担当課長	日向安子君
産業振興課総括課長兼農林振興担当課長	竹澤泰司君
産業振興課農政企画担当課長	工藤薫君
産業振興課商工観光担当課長	輪達隆志君
地域整備課総括課長兼上下水道担当課長	中村勇雄君
地域整備課環境整備担当課長	神久保恵蔵君
再生可能エネルギー推進室長	日山一則君
水道事業所長	中村勇雄君
教育委員会教育長	小林昌治君
教育委員会事務局総括次長	野中孝博君
教育委員会事務局教育総務担当次長	輪達ひろか君

教育委員会事務局生涯学習担当次長
選挙管理委員会事務局長
農業委員会事務局長
監査委員
監査委員事務局長

梅 木 勝 彦 君
日 山 一 則 君
竹 澤 泰 司 君
西 山 隆 介 君
関 向 孝 行 君

○職務のため議場に出席した事務局職員の職氏名

議 会 事 務 局 長
議 会 事 務 局 主 事
議 会 事 務 局 主 事

関 向 孝 行 君
竹 林 亜 里 君
松 坂 俊 也 君

◎開議の宣告

○委員長（上山 誠君） 10時よりちょっと早いのですが、そろっているので、始めたいと思います。再開します。

ただいまの出席委員は、全員です。定足数に達しておりますので、会議は成立しました。

（午前 9時57分）

◎議案第11号の審査

○委員長（上山 誠君） 昨日、民生費の1項の説明が終わったところまででしたので、質疑に入りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

質疑ございませんか。質疑ある方、ありませんか。

中村委員。

○6番（中村正志君） ページがちょっとよく分からないのだけれども、1つ目は、ふれあい作業所、向川原にあるふれあい作業所が以前、かりんとうを作って販売していたのですけれども、いつからだったのか、やめられた。そこはそういう障がい者の方々、どういうふうな方々なのかは分からないけれども、その人たちも手伝いながらやっているという。現在はかりんとうに代わるものを何かやっているのか。また、なぜかりんとうをやめられたのか。というのは、私もソフトテニスの大会等の参加賞で使わせていただいて、かなり好評でした。わざわざそれを買いに、どこに行けば買えますかという問合せもあったりする、そういうふうな状況だったのですけれども、今はまず使えない状況で、せっかく何か好評だったのをやめてというのも寂しいなと思ったりしていたのですけれども、その辺のやめたいきさつ、またそれに代わるものを何か作業されているのか、そういう状況をちょっと教えてもらえればと思っていました。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） おはようございます。それでは、今の中村委員の質問にお答えいたします。

かりんとうのことですが、かりんとうを作る技術を持った職員が退職されたということで、そこを引き継げる方がいなくなってしまったということで、その辺りから作製というか、そういうのはやっておりません。代わってというわけではないのですが、電子部品の組立てですとか、一応前からそれはやっているのですけれども、そちらについて作業していただいていると、今はそういう状況でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） いいです。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ございますか。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 何か二戸市に通って仕事というか、やっている方々が何人かいらっしゃるようですけれども、軽米町で障がい者が働けるような場所があればいいなと思います。

また、軽米町では専門的なそういう大学まで行って勉強したというか、資格のある方の指導者というのはいるのでしょうか。私はぜひ必要だと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） 指導者というと、作業所にいる方ということですか。

○5番（江刺家静子君） 作業所に必要なのだけれども、とにかく障がい者の人たちの何かイベントがあったりすると、そういう方々が来てそこで販売したりするのですが、その指導員、そういう障がいの方々の……

〔「委員長、質問の意味が分からないので、もう一度お願いします」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 分かりました。あまり、いまいち分かっていないですね。では、質問をお願いします。

○5番（江刺家静子君） ふれあい作業所とか、こぶし作業所というのは、社会福祉協議会でまずやっているというか、あれなのですが、そこに指導者が、そういう障がい者の方々の指導員をするような資格のある方は何か軽米町にはいないのかなと思っていました。

そして、まずさっきのかりんとうの話なのですが、ああいう作業するときには皆さんと一緒に指導したりしてやる方はいますけれども、そうではなくて障がいそのものというか、いろんな相談に乗ったりとか指導したりする、そういう方はいらっしゃらないのではないかなと思います。できれば二戸市に通っていた人たちが軽米町でも仕事ができるようになればいいなと思います。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまの質問にお答えいたします。

指導者というのは大学を出て資格を取った方という認識でいられるようなのですが、そういうことではなくて、そこにいる方については研修等受けて、そういう指導等ができるような方をお願いしております。

二戸市に行っている方が軽米町で働けるようにという話なのですが、二戸市に行っている方が軽米町で働きたいのかというと、そうではなくて、二戸市に行ってい

る方は二戸市の施設、そういう作業所を希望して行っていることですので、必要であれば軽米町に来て働くことはもちろん可能でございます。というのは、人数的にも今ちょっと減っております、こぶし作業所もふれあい作業所も減っておりますので、もちろんそういう方がいらっしゃれば受入れは可能ということになっておりますので、その中であって今回というか、令和5年度から二戸市にある作業所に行っている方がいるということで、補助金を今年度から出しているという状況でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。よろしいですか。

○5番（江刺家静子君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに。

中村委員。

○6番（中村正志君） 高齢化社会であるというふうなことは誰もが認めるところだと思うのですが、それと何か反比例するように老人クラブが停滞しているというふうな話を聞くのですけれども、高齢化社会であれば、それこそ高齢者の福祉だけではなく、やはり生きがい対策とか、いろいろな面で老人クラブの活動等は非常に重要な部分を占めているような気がするのですけれども、現在の老人クラブの実態はどのような状況なのかということをお伺いしたいのですけれども。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） 中村委員のご質問にお答えいたします。

老人クラブにつきましては、以前は各行政区等に1つぐらいあるような形ございました。しかしながら、最近高齢者の定義というか、高齢者の方々が自分を高齢者だとあまり思っていない方が多い。私も子供の頃、60歳の還暦を迎えた方が赤いちゃんちゃんこを着たりしているのをたまに見たりすることもあったのですが、その頃の60歳と今の60歳という、またかなり違ってきているということで、老人クラブの会員の方々が近所の方々に「あなたももう年寄りなんだ、入ってくれ」と行くそうなのですが、「まだ早い」と誰も入らないというような状況をお聞きしておりますので、実際に「それら、いつ頃になったらいいのか」と言えば「もう少し待ってくれ」と言うから、そろそろいいかなと思って行くと、今度は認知症になっていたりとか、あるいは介護状態になっていたりとかという、後期高齢者ぐらいになってくるとそういう方も増えてくるということで、なかなか会員が増えないということで、年々1つ、2つずつ減っていく状況でございます。今十幾つだったかな、あるのですけれども、その方々については、先達の方が特に病気したりということになると、もう事務手続とか、そういうのをやる人たちがいなくなるということで件数が減ってきているという状況があります。

そのことを危惧してというところもあって、老人クラブというのが昔は各行政区

にあったと。その活動が行政区どこでも希薄になってきているということから、生活支援体制整備事業の中で居場所をつくって、そこに子供からお年寄りまでみんなが集って、その中で助け合いだとか、そういうのが住民相互の中で生まれてくることを期待して行っている事業として、トコかるとか、ああいうところを今後つくっていきたいと。そういう老人クラブとか、子供会活動の代わりになるようなものをあそこでもできるようにという趣旨で行っているということでございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） ありがとうございます。老人クラブ、私ももう70になりましたので、十分そういう年齢になっていますけれども、老人クラブという名前そのものが気に食わないという人たちもいるかと思えますけれども、ですから考え方だと思うのです。これからこういう高齢、65歳以上の方々が町の約半分ぐらいの状況になってくると。その中で、ただただ福祉というふうな考え方ではなく、福祉とともにやはり重要なのが学習活動というか、生涯学習との連携というのは非常に大きなものが必要になってくると思えますので、今度それこそ政策推進課というふうな課もできるようですので、そういうふうなところを含めて高齢者の生きがいつくりとか、学習活動とか、仲間づくりをもっと盛んにするにはどうすればいいかという、福祉サイドだけではなく考えていただければなというふうに思います。

晴山地区とか小軽米地区のほうでも、何かトコかるに代わるようなのをつくってほしいという多分説明会やっているのではないかと思いますけれども、今それこそ晴山公民館、小軽米公民館等も、実際あそこはただ単なる貸し館でしかないというふうな状況、その辺との今後の活用も含めた形で考えて、もっともっと高齢者の仲間づくり等を盛んにできるような体制をしていただきたいと思いますと思いますが、その辺のところ、今後の考え、そういう考えをお持ちなのかどうか含めて最後答弁いただければと思います。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご提言ありがとうございます。新しく政策推進課が今度できるということで、そちらにも各課から係長が兼務として行くような形をつくらうということになっておりますので、その中で各課の係長等もいますので、そこでそういう話を盛り上げていただいて、各課のほうで実践するというような方向になると思います。

老人クラブに代わるようなものということ、いろいろやってはいるのですけれども、共食事業等もその一つでございますし、百歳体操というのもその一つで、社協のほうではサロンといって、みんな高齢者が集まってお茶をしたり話をしたりというお達者クラブというのもやっております。その中で新たな枠組みというか、そ

ういうのでできることがあればと思いますので、その辺については政策推進課とともに話し合ったいと思います。ありがとうございました。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。ほかに。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 敬老会を何年もやっていないのですけれども、今年はそういった計画はあるでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

敬老会というのは、とにかく1か所に集まってという形でございますので、前にもそうだったのですが、やっているときに関しては連れてくる方がなかなか大変だということもあって、今回かるまい文化交流センターができたということもあって、やろうかなとも考えておったわけですが、あそこの場所についてもステージ等を皆さんが見れるとなると、椅子が出てくる観覧席に上っていかなければならない。そういうこともあって、ここ3年ぐらいやっていないのですけれども、その中で今行っている、特産品の配布をもってやっているのですが、そこについてはかなり好評いただいております。

近隣市町村を見たところ、近隣市町村でももうどこでもやっていない。地区の行政区にお願いして、補助金等を出して行っているところもございますし、民生委員の方々が中心になってやっているという市町村もあるようでございますが、軽米町ではどのようにしたらいいかということではございますが、今地区のほうで行っているところもほとんどが記念品配布で終わっているような状況だようでございます。軽米町でも来年度につきましても、本当は行えばいいのではございますけれども、なかなかご家族の方々の理解も得られないところも出てきているというところで、来年度も軽米特産品の配布をもって、それに代えさせていただきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） いろんな方の意見を聞いて、私としては家族が送り迎えするのが大変だということもあるかとは思いますが。ちょうどお祭りのときにやれば、祝日、日曜日とかだと休みの方もあって、何かそういうときに集まって、「本当にしばらくでしたね」と、かなり高齢になって懐かしい人たちに会えるという、それを見ていると、そういう機会をつくってあげたいなど。そして、終わったらうちに電話していただきとかと頼まれて電話を何件かしたりしたこともあったのですが、そうするとお孫さんとかいろんな方が迎えに来てくれるということで、本当に楽しそうだなと思ったので、民生委員が特産品を配って歩いているのは見ていただけ

れども、できれば来られる方々は集めて、懐かしい顔に合わせてあげたいなと思いましたが、私は継続をお願いしたいと思うのですが、要望で終わります。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ご提言ありがとうございます。もちろん皆さん集まっていたいて、皆さんに会って、久しぶりだなというふうな形になれば、それはもちろんいいことだとは思いますが、逆に別の方面から考えてみると、実際来られる方々にのみ記念品等を差し上げているという状況でした、今までは。来られない方は来られない方で、それで終わりというような形もあって、やはり公平性の面から考えても、そのほうがいいのかというふうにも思っております。

もう一つは、参加率なのですが、参加率がかなり低い。30人とか、40人とか、多くとも40人ぐらい。その方々を集めて経費をかけるというのも、なかなか行政改革の面でそういう提言もありまして、そこも職員が何日もかかってやるということもあって、やはりそこは公平性の面からも、そういう形を取ったほうがいいのかというふうな形というか、意見もありましたので、今そういうふうにさせていただきたいというふうに思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願いします。

○委員長（上山 誠君） ほかに。

茶屋委員。

○8番（茶屋 隆君） 関連してですけれども、課長のほうから居場所の確保ということで、介護予防とかいろんなのを含めて体操とか、いろんなことをやられていると思います。サロンとか、そういったのは本当に非常にいろいろと皆さん対応していると思っております。そういった部分で、例えばサロンというのは、オレンジカフェというような受け方でいいのか、サロン。それとまた違うのかな。

〔「オレンジカフェは認知症」と言う者あり〕

○8番（茶屋 隆君） 認知症とこだわらないで、お年寄りという部分では、例えば子ども食堂とかそういうのも連携していけばいいのかと思ったりもします。

あとは、今同僚議員の方から敬老会ということですが、敬老会も一堂に会してやるというのは難しくなっている。逆に行政区ごとというような話も前も出たことがあったと思います。私たちの町内会では、行政区ごとにやるのならやりやすいなというような声もあります。やっぱりこれからはそういうふうにしていかなければ、昨日私も述べましたけれども、町内全体でというのが体育祭にしてもできなくなっているし、そういった部分でこれからいろいろ変えていかなければいけないと思いますので、その辺を考えてやっていかなければいけないのかな。地域のコミュニティーを希薄にしないためにも、そういったことから地道に、そうすれば3世代交流とか、いろんな部分で見えてくると思いますので、そういったことも考えていければいいと思いますので、いかがでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ご提言ありがとうございます。地域のコミュニティーということでございますが、先ほど言ったサロンというのはお達者クラブという形でやっておりますので、認知症だとか介護だとかというのは関係なく、お年寄りが集まっていたり、お茶をしたり、あとはそこに社協の職員が行って、そこでいろんな相談を受けたりとか、そういうこともしておるという状況でございます。

今後のコミュニティーについてですが、今やっている部分については継続して進めていくと。そのほかに今度はトコかるに代わるというか、トコかるにプラスして小軽米、晴山にもそういうところをつくって皆さんが集まっていたり、いろんな活動ができる、子供が来てもいいというようなところを、子ども食堂を含めているようなコミュニティーができるように。トコかるに来ているお年寄りの方々も、やっぱり休み、土曜日とかに行くと子供たちも来るということで、かなりそこが楽しいというようなお話もいただいておりますので、さらにこの居場所づくりを進めていきたいなというふうに考えております。

しかしながら、ボランティア活動ということの中でやっておるものですから、ボランティアの方々を増やしていくというのなかなか大変だということで、ボランティアをしてくれる方々の養成講座を今各地区で行っているという状況ですので、もう少しあれば、そういうのが盛り上がってくるのかなというふうに考えておりますので、よろしく願います。ありがとうございます。

○委員長（上山 誠君） 茶屋委員。

○8番（茶屋 隆君） ありがとうございます。いろいろ対応していると思います。

この間の一般質問で同僚議員も質問いたしましたけれども、トコかるに関して、施設の設備とかいろんなことを考えてみれば、今のところではちょっとどうかなと私も見ていて思ったりもするのですけれども、それで質問したら場所的にどこかをということでも、まず適当な場所がということで図書館ということで言ったけれども、町長はそれは考えていないということですが、そういった部分で、そういった場所があれば、もっとみんなが気軽に集まれるような感じであれば、子ども食堂とかそういったことにも取り組んで、やはり私たちも協力してボランティアとかそういうのにも声がけをすとか、そういうことも大切になってくると思いますけれども、そういったことをやっぱり地域のコミュニティーのためにもやっていければいいと思いますけれども、町長いかがでしょうか。子ども食堂というのを軽米町でもそろそろ考えてみてもいいと思いますけれども。

○委員長（上山 誠君） 町長、山本賢一君。

○町長（山本賢一君） 先ほど課長が申し上げたように、やはり地域の活動というか、ス

ポーツにしる、いろんなコミュニティーの形成にしる、非常にそういったことはこれからも大事になってきておると思います。そういう点でこれからの地域の活動と
いいますか、コミュニティーの形成も含めてしっかりとした支援方法、そしてまた
どういったものがニーズにあるのか、そういったニーズも様々調査しながら、地域
の支援活動をさらにまた充実強化していきたいというふうに考えております。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ございますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） さわやかカップル祝金が150万円計上しておりますけれども、
この前も出生数聞いて、非常に先行き不安だなと思っています。実際広報かるまい
を見れば、そういう数字なのだなと思いますけれども、昨年1年間で結婚されたカ
ップルというのは何組ぐらいあるのでしょうか。また、この150万円は何組ぐ
らいを想定しているのかをお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課総合窓口担当課長、寺地隆之君。

○町民生活課総合窓口担当課長（寺地隆之君） ただいまの質問にお答えいたします。

さわやかカップル祝金は、まず実績でございますが、令和4年度は9件ござい
ました。現在商品券5万円と現金5万円、合わせて10万円の給付を行っております。
15件、期待値を含めて予算計上させていただいております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） 総合窓口担当のほうは届け出た人に対して配布するという役割な
のかなと思っていましたけれども、1つ確認ですけれども、結婚支援に関しての担
当課はこれまで健康福祉課ということでのいいのですか。いずれこういう状況、ある
程度結婚してもらわないと出生数も確保できないのではないかというふうなことを
考えれば、町全体としての非常に大きな重要な課題であるということ、それこそ
ただ単一、健康福祉課なんかはかなり複雑な課にもなっていて苦しい中で、そこま
でやるのも大変ではないかなという気はしているのですけれども、やはり各課全体
での大きな課題として取り組んでいただくということを考えれば、政策推進課での
重要課題の一つとして取り上げてやる方向が、今そういう時期ではないのかなと思
うわけですが、そういう考えはないのでしょうか。今までどおり健康福祉課
だけでやろうとしているのか。その辺のところの考え方を伺いたしたい。どなた
がお答えするか分かりませんが。

○委員長（上山 誠君） 副町長、江刺家雅弘君。

○副町長（江刺家雅弘君） ただいまのご質問にお答えいたします。

結婚する若者が非常に減っているというのは、これまた全国的な課題であると思
えております。様々な要因がございます。いずれ家庭の負担の割合ですか、ずっと

昔は家事、育児は女性がするものだというような風習と申しますか、そういったものもある。あとは女性の未婚、結婚したくないといえればあれですけども、ずっと独立していろいろ仕事をしたいと思っている女性の方もいる。あと一番の原因というのは、若い人たちが軽米町で働く職場が少ない。あとは育児休暇、今男性も育休とか取れるようにはなってきておりますけれども、ただ町内の企業が全て男性の育児休業だとか、そういった部分を推進しているのかと申しますと、なかなかそこまですべて推進できないような、おのこの企業の事情もあるかと思っております。一生懸命対策というものも、いずれそういった総合的な部分を考えていかなければならない。先ほど政策推進課ができるから政策推進課がと言いますが、いずれそういった部分をいろいろ話題を提供してもらえれば、どういった対策とか、どういった方法があるのかというような部分は調査しますが、ただ先ほどから何でもかんでも政策推進課ということではなくて、まず来年度の政策推進課につきましてはいろいろなテーマを考えております、順番に解決していかなければならない。人口の減少に何とか歯止めをかけていかなければならない、若い人たちが地元に戻ってくるような、そういった部分からいきますと、人口減少対策、若者の移住定住とか、そういった部分も対策を打っていかなければ、なかなかこういった若い世代のカップルと申しますか、若い世代ではなくても、ある程度年を取ったカップルもおるかと思っておりますけれども、そういった部分に結びついていかないのかなと考えておりますので、それに特化した対策をどうのこうのではなくて、総合的な形で取り組んでいきたいと考えております。その中で各課の人員を集めて、様々なテーマに基づいていろいろ検討していく政策推進課にしたいなと思っておりますので、そういった部分でいずれすぐそれに取りかかりますよということではなくて、いろいろな課題を出して、どういった形で進めていけばいいのかというような部分をまずは検討して進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） この問題は非常に難しい問題であるかと思っております。答えがないのではないかと思いますけれども、私たち議会においても、人口減少・少子化対策調査特別委員会を設置した第一の目的が、軽米町の結婚する人たちが少ないというふうなこと、どうにかして結婚する人たちを増やしたいと、どうすればいいのだろうかということまで議会でも協議してきております。なかなか答えが見つからない状況で、増える状況が少ないのではないかなと思っておりましたけれども、いずれ町としても大きな課題として、すぐに政策推進課ではないよという言い方でしたけれども、かなり大きな重要課題ではあるかと思っておりますので、議会と町とお互いに話題提供し合いながら、何とかいい方法を見つけていただきたいなと思っておりますので、

よろしくお願ひしたいと。要望で終わります。

○委員長（上山 誠君） ほかに。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 介護とか障がい者支援、本人はそれぞれ支援されているわけですが、家族についての応援や支援について、家族が負担になって大変なことがたくさんあると思うのですけれども、その対応についてお伺ひいたします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまの田中委員の質問にお答えいたします。

介護といいますと、本人はもとより家族の負担が大きいというところは理解しております。今までですと仕方がないのだみたいな感じでやっていたと思うのですが、やはり町のほうで本人に対するサービス等を調整する上で、家族の負担を考えながら、できれば家族が負担なく、できるだけ負担が少なくなるような方法を取りたいということで今町でもそうですし、町内はもとより全国的にケアマネのケアプラン作成ですとか、サービス調整についてはできる限り経済的負担のことも考えながら家族の負担を減らすようなサービスの調整を行っているということでございます。

中には、経済的負担のために介護を受けられない方等もございます。そういう方については、生保の申請をするだとか、そういう経済的な負担も含めていろいろな方面から見た形でケアプラン等を作成させていただいております。

そのほかにも地域包括支援センターの中では、いろいろな相談を受けておりますので、ご家族からいろいろな相談をいただければ、その都度対応いたしておりますので、もしそういう方がございましたら、地域包括支援センターのほうにご連絡くださいというふうにお伝えいただければと思います。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） そこら辺がちょっと皆さん悩んでいる方で、地域包括支援センターに相談すればいいのだということまで多分家族が考えられない状態が多いなと感じます。別に障がい者でもいいですし、そこら辺のカバーをできるだけできるような、来てくださいますも、行くというのも限界があると思うので、そこら辺支援していただけるようお願いして終わります。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ご提言ありがとうございます。もちろんそういう形でやりたいということで、そちらに向けて進んでいるという状況ではございません。

なかなかこちらに来られないという方については、民生委員の方々から情報をいただいたり、あるいはご家族からお電話をいただいたりということで、毎日のようにうちの会計年度任用職員ですとか、社会福祉士ですとかが訪問をしております。

そこからその方々の状況を見ながら、介護につなげるのか、それとも介護予防でいいのかというような形を見ながら進めているという状況ですので、障がいも含めて、介護に至らずとも、お年寄りの相談とかもございますので、そういう方がございましたら遠慮なく電話等いただければ訪問もいたしますので、よろしく申し上げます。

○委員長（上山 誠君） ほかにありますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） ふれあい共食事業についてお伺いしたいのですけれども、各地区でやっている。それで、ふれあい共食事業の予算が2つに分かれているのですけれども、講師謝礼と各地区で料理を作る委託料というふうなことなのか。これは食事の提供と、その間レクリエーションとか、映画鑑賞とかいろいろなことをやる、講演会等もあるかと、そういうふうなのが講師謝礼だとは思っているのですけれども、この講師謝礼には上限というか、それぞれの地区に関してのあれがあるのでしょうか。

実は私もちょっとこれに関わって、逆にそういうふうな食事する前までの部分を担当しているものですから、あちこちから講師を呼んでお願いしたり、金がかからないところもあるのですけれども、どれぐらいの予算をそれぞれで見ていただいているのかなということをお伺いしたいのですが。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまの中村委員のご質問にお答えいたします。

すみません。今ちょっと確認しておりました。ふれあい共食事業については、食事等の作製あるいは購入に係るものとしては1人当たり300円を支出しております。そのほかに教材費として、いろいろな活動する上で必要な教材があれば、そういうことについても、うちのほうで1回当たり3,000円を上限に負担している状況でございます。

次に、講師謝礼については、一応ここで見ている分については1地区当たり8,000円をめどにお願いしているという状況で、その分の予算を計上させていただいております。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） それでは、講師等を頼んだときの1地区当たり8,000円ということは、それはまずもらえるということで、併せて同じそういうふうな講師頼むとかほかの助成事業等もあるかとは思っているのですけれども、そういうふうなほかの課とか、いろんなところとの組合せ等も可能なかどうか。

○委員長（上山 誠君） ほかの課というのは。

○6番（中村正志君） では、具体的に言いますけれども、ふれあい共食事業では8,000円までもらえますよと。例えば、もしかしたら教育委員会事務局の生涯学習の

ほうでもそういうふうな制度があるはずなのですけれども、講師謝礼の助成というのは、1回当たり5,000円だとか4,000円くらいだとか。だから、それを組み合わせて1人1万円ぐらいの講師を呼んでくるとかというふうなことも可能なのかなということです。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） 健康福祉課のほうでは、特にそういうほかのところと行ったので半分にしますとかという規定はございませんので、うちのほうではかかった分は支払いするという事になっておりますし、恐らく教育委員会事務局のほうでもそれはそれとして、ちゃんとした行事等を行うのであれば助成はしていただけるものだと考えております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） では、別なことを聞きますけれども、64ページに上映用メディア借上料というのがあるようなのですけれども、これは何かをやろうとしているのだと思うのですけれども、映画会をやろうとしているものなのか、ちょっとこの内容を教えてください。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） すみません。それちょっと後から調べて答弁してもよろしいですか。申し訳ないです。

○委員長（上山 誠君） 後からということですので。

○6番（中村正志君） では、別なところ。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） 65ページの社会福祉施設費で、需用費、修繕料、風呂の修繕ということで、多分老人福祉センターだと思うのですけれども、毎年のように風呂の修繕があるような気がしていました。そのたびにその間は休館だとかという。議会でもちょっとその辺を今後調べていきたいなと思っていました。現状をちょっと伺いたいのですけれども、風呂の寿命というのはどういうふうな状況になっているのか。毎年こうやっていて、非常に修繕費もかさんできているのではないかと思うのですけれども、現状として担当のほうではどのように受け止めていますか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

老人福祉センターのお風呂については何年か前に改修しまして、修繕はしたのですが、なかなかろ過装置ですとか、そういうところまでの全てにおいての修繕ではなかったことから、最近ここ何年かですごく故障あるいは摩耗等による修繕が必要になっているという状況でございます。その中であって今回ろ過装置というところなのですが、ろ過装置の中に入れるろ過をするためのろ材というのですか、それが

何かずっと替えていなかったということで、今回それが汚れてきていて、ろ過がうまくいかなくなってくるような状況があるかもしれませんよというような業者の保守点検等による指摘があったことから、今回予算を計上させていただいておりますが、これについては本当は11月頃に連絡がありまして、すぐ修繕しようかなと思って補正等お願いしようかなと思ったところ、その業者に直接お聞きしたら、まだすぐにそんなになるわけではないし、冬の間はその業者がろ材交換等の業務は休みますということでしたので、4月以降にやるということで今回予算要求させていただいております。

今後風呂のほうの状況はどうかといいますと、私も専門家ではないのであれなのですが、結構な部分を直してきているということで、恐らく大きなところではそんなにぼんと故障するということは特にはないのではないかなと思っております。以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） 老人福祉センターですので、60歳以上は無料だと思っていましたけれども、時間的にも10時から4時までという平日だけの開館なので、多分ごく限られた人たちだけの利用かなとは思っていましたが、どこまで聞こえてきているかどうか分からないのですけれども、一応風呂のついでに、高齢者だけではなく町民の若い人たちも老人福祉センターを夜開ければ入りたいなとか、そういうふうな声は聞いてはいないのでしょうか。何かアパートとか住宅等に入っている若い世代なんかは、例えば土日なんかは広いところに行って一家で風呂に入りに行こうという、八戸市辺りであるとそういう人たちが結構いるのですけれども、そういうふうな希望を持っている若い人たちもいるような気がしないでもないのですけれども、そういう声は届いていないかなと思いますけれども、届いているかどうか、まずお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

少なくとも健康福祉課のほうには届いてはおらない状況ですが、社協のほうとかには届いているのかもしれませんが、または若い人たちも入りたいなと思っている方もあるのかもしれませんが。そこについても、今後需要があるのであれば検討していきたいと思っておりますので、社協のほうとちょっと相談してみたいと思っております。

あと、結構見てみると若い人というか、子供とも一緒に来ているような、おばあちゃんと来ているとか、おじいちゃんと来ているとかというのかもしれませんが、そういう方も来ていらっしゃるということで、ほぼあそこに来ている8割の方が無料の方でございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） いいです。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、では続きまして3款2項に入りたいと思います。

健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） それでは、3款民生費、2項児童福祉費についてご説明いたします。

まず、1目の児童福祉総務費でございますが、こちらについては保育園等の職員とか、ピヨピヨ広場のほうの職員等の賃金、報酬等について計上させていただいております。ほぼ人件費のほうで増額になっているという状況でございます。

次に、2目ですが、児童措置費となっております。こちらについては扶助費として、児童手当、障害児通所給付費として9,391万5,000円ということで、ほぼ今年度並みの金額となっております。

次に、母子福祉費でございますが、こちらは町民生活課でございました。

あと19節について扶助費でございますが、寡婦医療費等について、うちでやっておりますが、こちらも同額となっております。

次に、4目児童福祉施設費でございます。こちらについては保育園3園と、あと地域子育て支援拠点事業の分についての報酬等になってございます。会計年度任用職員等の給与等となっております。この中で12節の委託料でございます。花のまち軽米こども園エアコン設置工事設計監理業務委託料ということで、令和6年度に花のまち軽米こども園のエアコンの新たな設置をしたいということで、昨年あたりなかなか部屋が冷えなかったということで、子供たちのことが心配だということで、来年度行うこととしております。

次に、14節の工事請負費でございますが、昨年幼稚園を含む3園の遊具について施設点検をいたしたところ、なかなか厳しい結果が出たというところで、来年度その遊具等についての整備工事を行うということと、先ほど申しましたようにエアコンの設置工事を予定しておりますので、これについてもよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、5目の児童クラブ運営費でございます。こちらについては、12月からかるまい文化交流センターのほうに移設をして、そちらで今行っております。ここについて増の要因でございますが、新たな施設に行ったことによって光熱水費がちょっと上がったというところと、あとは児童クラブ送迎業務委託料のほうで若干増額になっているというところでございます。

2項については以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 続きまして、町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 3目母子福祉費の医療費給付事業について説明させていただきます。

医療費給付事業の事業費は3,028万5,000円でございます。内訳といたしましては、乳幼児医療費715万7,000円、妊産婦医療費300万円、ひとり親家庭医療費592万9,000円、児童及び生徒の医療費につきましては1,237万2,000円となっております。それぞれの医療費の一部負担金につきまして、全額を給付するものでございます。また、昨年8月の医療費分より、児童生徒の医療費助成につきましては現物給付が行われておりまして、県内の医療機関で一部負担金につきましては、窓口での支払いは行わなくて済むようになっております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） では、2項の説明が終わりました。

質疑を受けますけれども、結構ありますか、ここの質疑。あれば、11時前に終わるのであれば。

では、田村委員。

○7番（田村せつ君） 14節のところに、旧幼稚園遊具撤去工事とありますけれども、結構遊具があるのですけれども、その遊具は全部撤去されるのでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

点検をいたしまして、特に使用が駄目ではないかと言われた部分については交換いたしますし、今ある既存のものでも、いろんな別な遊具等が入ってくることから、その配置等についても検討したいということで、そちらも一旦撤去して、こういうふうにしたほうがいいのかという配置を設計していただいて、そちらに基づいて整備をするという形としております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 田村委員。

○7番（田村せつ君） ここに児童クラブも来るので、撤去してしまったら遊ぶものがないのかなと思って心配しました。

雲梯とか、いろんなものが滑りが悪い、手をけがするような塗り方をしているので、結構駄目なものもあると思います。そうしますと、小軽米保育園には、撤去したものでなく新しいものが整備されるということになりますか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

先ほど幼稚園のほうも新しくなるというような感じで言ってしまいましたが、幼稚園については児童クラブが移設されることから撤去といたします。でないと、なかなか子供さん方が外でも遊ぶ、中でも遊ぶとなると、支援員の方々がちょっと見ているのが大変だということもあって、今回は撤去だけということになります。

各保育園、こども園については、先ほど点検して、いいのは残すと言ったのですが、一応全部交換して新しいものにするということで、配置も含めて設計していただいております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 田村委員。

○7番（田村せつ君） 分かりました。いろいろ遊具については子供たちも安全に遊べない場合もあるので、点検して悪いものは取って、新しいいいものを設置して、設置場所も考えてくださるということで安心しました。ありがとうございました。

○委員長（上山 誠君） ほかにありますか。

あるのであれば、ここで休憩を取りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） では、10分まで休憩します。

午前10時53分 休憩

午前11時09分 再開

○委員長（上山 誠君） では、再開します。

1項の中の答弁漏れを健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） 1項の中村委員のご質問の上映用メディア借上料というところがございます。こちらについては、さっき報告がありました。宇漢米館で町民対象に助け合いの地域づくりに関する内容の上映会を2回開催するためのものございまして、1回当たり11万円かかるというところがございます。

現在助け合い地域づくりに関する内容の上映会というか、そういう講演みたいな研修会とかというのを行っておりますので、その一環として大々的に宇漢米館ができたということで、そこで行うという内容でございます。

○委員長（上山 誠君） では、まず1項の質疑、答弁は中村委員、オーケーですか。

○6番（中村正志君） はい。

○委員長（上山 誠君） では、進めてよろしいでしょうか。

〔「はい」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） では、2項の中の質疑を求めます。質疑ございますか。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 児童福祉総務費で保育園関係の人件費があるのですけれども、

児童福祉施設費のほうは、ほとんど全員が会計年度任用職員のようにです。施設ごとに正職員が何人、会計年度任用職員が何人いるかお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問でございます。職員の数でございますが、花のまち軽米こども園については正職員が8名、会計年度任用職員が9名。小軽米保育園でございますが、正職員が7名、7名のうち2人が再任用職員となっております。会計年度任用職員が4名。あと晴山保育園ですが、正職員が6名、会計年度任用職員が3名となっております。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。入所の子供の人数に比べると、何か花のまち軽米こども園が8人で、小軽米7人、晴山6人ということで、花のまち軽米こども園の正職員が少ないなと思います。会計年度任用職員の方が9人とかいるようですけれども、ここに研修費もあったかと思うのですが、今いろんな対応が求められる子供たちがいるので、それぞれの先輩の保育士からいろいろ聞きながらとか、保育士の経験がある方もいらっしゃるかと思うのですが、本当に新しい情報とか、研修会の機会も必要だと思うのですが、会計年度任用職員の研修というのはどのようになっているかお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

会計年度任用職員の研修につきましては、正職員の方々が学んできたものを園内で伝達するという方法も取ってございますし、あと勤務の状況等によって会計年度任用職員の方が時間が許すようであれば、その研修会等に合わせて研修に参加していただいている状況でございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。やっぱり研修というのは、本当にどんどん新しくいろんなことを研修していく必要があると思いますので、そういう機会をぜひ時間を取ってやっていただきたいと思います。ありがとうございました。

○委員長（上山 誠君） ほかにございますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 宇漢米館に子育て支援センターということで、まず施設を新たにしていると思いますけれども、そこの12月からの利用状況はどういう状況なのか。

あわせて、あそこの施設を呼ぶ場合は何と呼んでいるのでしょうか。子育て支援センターと呼んでいるものなのか、ピヨピヨ広場と呼んでいるものなのか。もしあ

れであれば、宇漢米館は全体のあれですから、あそこを愛称的なものを何か、ピヨピヨ広場でないですけれども、そういうふうなのをつけて、みんな共通した認識を持ったほうがいいのかなと私は思うのですけれども、その辺の考えはないか、併せてお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのご質問にお答えいたします。

あそこの子育て支援センターでございますが、子育て支援センターと名前はついておりますが、通称はピヨピヨ広場という形で住民の方にも親しまれている名前となっております。

利用数でございますが、以前に比べれば雲泥の差といいますか、そういう形でございます。以前ですと1日当たり1組から2組、多くてイベント等を行って5組、6組というような形で、土日は開催していない状況だったのが、こちらに来てからは土日、祝祭日もやっております。そこに合わせていろんな行事等を行っている状況となっておりますので、利用数にすれば、12月だけで二百五、六十人だったかなと思っております。行ってみると、平日は2組、3組というような形でございますが、土曜、日曜、祝祭日にあっては、やはり近隣の市町村からもかなり来ているということで、約3割から4割ぐらいの人が他市町村から来ているのではないかと、利用料も無料ということもあって結構好評を得ているというところで、町内の子供たちも来てくださるということで、実際平日ですと利用できる方というのは保育園に行っていない方という形、あるいは保育園に入る前の方というのが対象になりますので、当然1日の利用数は少なくなるのですが、やはり土日、祝祭日についてはかなり人数が増えているということで、職員も対応できないような状況もあって、健康福祉課のほうからも応援に行ったりすることもございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、2項を終わらせていただいて、3項災害救助費でございますか。

〔「ないです」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） では、4款衛生費。

健康福祉課健康づくり担当課長、日向安子君。

○健康福祉課健康づくり担当課長（日向安子君） それでは、私のほうから4款衛生費、1項保健衛生費についてご説明を申し上げます。

まずは、1目の保健衛生総務費でございます。予算書は73ページから75ページまでとなります。来年度の予算額は3,175万5,000円で、今年度に比較しまして1,621万9,000円の減となっております。こちらの主な事業は、自殺対策の強化事業でございます。586万7,000円の事業費でございます。コロナ禍が収束に向かい、相談事業やゲートキーパーの養成講座を外に向けて開催する機会が増えることを鑑みての計画としております。そのほか令和5年度中に完成予定であります自殺対策計画、また健康かるまい21プランに沿いまして、令和6年度より活動を進めてまいりますので、こちらの保健活動を推進するための会議費等の予算を計上しております。

続きまして、2目の母子保健活動費でございます。予算書は75ページから77ページまでとなっております。来年度の予算額は6,424万円で、今年度に比較しまして1,292万9,000円の増となっております。こちらの主な事業としましては、重点施策・主要事業等を御覧いただきたいと思います。3番目の子育て環境日本一を目指すまちづくり（子育て・教育）の丸3個目、丸4個目も含まれておる事業でございます。

初めに、子育て世代包括支援事業、事業費1,011万8,000円でございます。子育て世代包括支援センターめぐかるによる子育て支援で、妊娠期から子育てまでの総合相談、子育てに関する学習会等を実施しております。また、出産・子育て応援事業では、妊産婦の精神的支援と経済的支援を合わせた伴走型支援としまして、妊娠期と出産後に相談事業と伴走し、おのおの5万円の給付を行う事業を行っております。さらに、町独自の事業としまして、令和6年度より新たに1歳児未満の子供を育てる世帯へのおむつ補助の事業を行うことを予定しております。経済的な支援の強化を図りたく132万円を計上しております。

次に、妊産婦乳児健康診査事業及び交通費助成事業、828万円の事業費でございます。妊産婦健診、新生児聴覚検査などの費用を助成することにより、妊娠、出産に係る経済的負担の軽減を図り、安心して妊娠、出産ができる環境を整えるものでございます。また、こちらも町独自の事業としまして、早産でありましたり、ほか何らかの理由によりまして集中的な治療が必要となった新生児を持つ世帯において、特定された医療機関への交通費の助成を行い、経済的負担を図りたく20万円を新たに計上しております。

次に、3目の予防費でございます。予算書は77ページから78ページとなっております。来年度の予算額は3,643万6,000円で、今年度に比較して6,634万4,000円の減となっております。こちらの主な減の理由は、新型コロナウイルスワクチン接種に係る費用でございます。次年度予防費につきましては、季節性インフルエンザ予防接種を実施することによりまして、重症化の予防と感染

拡大の予防を図ってまいります。また、町の独自の取組としましては、6か月から高校生及び妊娠中の女性のインフルエンザ予防接種につきましても、1回当たり2,500円を助成しているものでございます。

また、新型コロナウイルスワクチン接種につきましても、昨日も説明をさせていただいておりましたけれども、季節性インフルエンザ同様5類分類となっておりますので、国の方針としましては65歳以上の高齢者への接種の方向と見込まれておりますが、詳細につきましては今後国の動きに従って検討してまいります。ほか乳幼児から生徒の予防接種につきましても、適切な時期に接種が行われますよう、乳幼児健診や学校の休暇等を利用しての接種の働きかけを行ってまいります。

次に、4目の保健事業費でございます。予算書は78ページから79ページまでとなります。来年度の予算額が6,069万5,000円で、今年度と比較しまして1,587万5,000円の増となっております。こちらは、重点施策・主要事業等の2番の丸2つ目となります健康診査及びがん検診事業につきましても取り組んでいる事業でございます。高齢者の保健事業費もこちらに含まれております。令和5年度より糖尿病や高血圧に係る腎臓病の予防に着目しまして、尿中アルブミンの検査を健診に合わせて実施し、事後指導も実施しているところでございます。

また、高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業実施としまして、岩手県後期高齢者医療広域連合の委託によりまして、健康課題の分析を行い、身体、口腔のフレイル予防を目的に個別的支援及び通いの場での集団健康教育等を実施することとしております。また、こちらの新たな事業としましては、がんの放射線治療等による脱毛のある方への支援としまして、医療用ウィッグの助成を実施いたしたく、上限1名3万円で5名分の計15万円の予算をお願いしているところでございます。

また、7目健康ふれあいセンター運営費につきましては、こちらは新型コロナウイルスワクチン接種が終了しましたので、こちらで使用しました冷凍庫等の処分としまして、粗大ごみ等廃棄処理手数料を見ておりまして増額としております。

説明は以上です。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 町民生活課につきましては、5目環境衛生費につきましてもご説明いたします。

環境衛生費につきましては、主な予算でございますが、火葬場に係る予算及び鳥獣対策についての予算を計上してございます。火葬場に係る予算でございますが、10節、修繕料でございます。毎年度の定期点検及び年次修繕計画に基づきまして、火葬炉の部分的な修繕が必要であることから、190万3,000円を予算計上させていただいております。令和6年度につきましては、主燃炉と再燃炉のセラミックコーティング等を予定しております。12節の委託料でございますが、火葬場管

理業務委託料につきましては582万6,000円を計上してございます。

有害鳥獣対策につきましては、熊、イノシシ、ニホンジカ等の大型獣によりまず被害が懸念されることから、令和5年度と比較いたしまして、令和6年度は予算を増額計上させていただいております。具体的には、箱わなやくくりわなの設置時の朝夕の見回りのための費用弁償48万8,000円、消耗品費といたしまして追い払いのための大きな音の出る轟音玉等の購入、鳥獣を近づけないための忌避剤の購入、また猟友会へ貸与するためのくくりわなの購入等で27万円の予算を計上してございます。

また、有害鳥獣等の捕獲委託料につきましては76万4,000円を予算計上、あと備品購入といたしまして家屋への鳥獣被害防止のための持ち運びができて設置の簡単な電気柵の購入を予定しておりまして34万1,000円を予算計上してございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課総括課長、中村勇雄君。

○地域整備課総括課長（中村勇雄君） 地域整備課の説明をいたします。

予算書80ページの18節負担金、補助及び交付金でございます。説明欄の下から2項め、浄化槽設置整備事業費補助金と飲用水確保対策事業補助金でございます。今年度と同じ額で計上させていただいております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 6目につきましては、特別会計のところ
で詳細の説明させていただきます。

○委員長（上山 誠君） 説明が終わりました。

それでは、質疑に入りたいと思います。質疑ございますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 自殺対策の関係で、何か県補助金として地域自殺対策強化交付金175万7,000円が歳入であるのですが、歳出を見た場合、自殺対策講演会講師謝礼、こころの相談精神科医師派遣委託料とか、私が見た限りではこんな感じなのですが、自殺対策に関して、先ほど計画書を作成したという、それはもうできているということになるのかなと思いますけれども、令和6年度における自殺対策の事業といいますか、どのような事業を展開しようとしているのかお伺いしたいと。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課健康づくり担当課長、日向安子君。

○健康福祉課健康づくり担当課長（日向安子君） 中村委員のご質問にお答えいたします。

自殺対策の計画につきましては、完成というか、一通りできまして、パブリック

コメントを2月29日までホームページ上で公開しておりまして、ご意見をいただいております。今調整をしまして、公表をいたしたいと考えておるところでございます。

次年度の計画、主なところにつきましては、ゲートキーパーの養成というところを広げていきたいと考えております。今年度につきましても、民生委員であったり、生涯学習推進員の方々を対象に実施しておりましたけれども、町民の方にも広げていきたいと考えておるところでございます。

また、自殺未遂者の支援につきまして、岩手県精神保健福祉センター、保健所の職員の方々と協力しての取組も実施しておりますので、そちらも強化していきたいと思っております。まず一人でも自分で亡くなる方を減らすために、未遂の経験のある方はとても危険度が大きいので、そこを把握できている方につきましては、そのようなことが起こらないように、把握できている方の自殺を止めるように、こども努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） 19節の不妊に悩む方への特定治療支援事業助成金の予算ですが、今年度何件あって、それに対して来年度の予算こうだというのがもし分かれば。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課健康づくり担当課長、日向安子君。

○健康福祉課健康づくり担当課長（日向安子君） 昨年度、今年度と実施された方はおりませんでした。また、国のほうでも方針といいますか、保険適用になったということとして、要綱等も変えながら国の流れに即した形で対応していかなければならないと考えております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） 軽米町でもやっぱり何人かあるみたいなので、聞いた話もありますので、対応をきちんとしていただいて、さっき言った人口減少もありますけれども、悩んでいる方もいるみたいなので、もしあったときはよろしくお願ひしたいなと思っております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ございますか。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 鳥獣対策について、すみません。来年度の改革で一元化ということですが、予算的には2つの課で来年度は取るという形でしょうか。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） ただいまの質問にお答えいたします。

令和6年度の予算要求につきましては、町民生活課と産業振興課それぞれで予算要求してございますが、来年度以降一元化されるものだと思っております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） それの対応は、令和6年度は一元で対応していくということですか。予算は二元ですけれども、対応していくのは来年度、産業振興課1つで対応するという認識でよろしいでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 予算的には来年度は4款と6款の2つにまたがりませんが、それぞれで対応するのではなく、町民生活課ではなくて産業振興課のほうで対応するものだと思っております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。

○1番（田中祐典君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） これにはなかったのですが、いわゆるひきこもりというか、うちから出ないという方が、大人も子供も本当に幅広くて大変だと思うのですが、大人の部分について相談を受けたり、こういうような対応しているとかということがありますでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課健康づくり担当課長、日向安子君。

○健康福祉課健康づくり担当課長（日向安子君） 江刺家委員の質問にお答えいたします。

ひきこもりの方の調査、ひきこもりの方に向けての調査ということではなく、健診を受けていない方を対象に保健師、栄養士、あと歯科衛生士も含めて家庭訪問を実施したのですけれども、そうしたところで健診を受けない方の中には、ひきこもりといいますか、今まで仕事をしてきた方が何年か前にお仕事を辞めて軽米町に戻ってきて、おうちにおられて、外に出ていない、お仕事もされていないという方が複数名おられることが確認できまして、その中で家庭訪問を継続して続けておる方もおりますし、あとはこころの相談につなげて対応しているというか、相談している方もおりますし、ご本人が来られないときにはご家族の相談がきっかけになったということがございましたが、なかなかどこにどれくらいのひきこもりの方がいらっしゃるのかというところの実態把握ができていない状況でございます。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。私の友達なんかも、うちの近所にも3人ぐらいいるとかと、本当に年金暮らしの両親というか、親と一緒に暮らしている

方もいらっしゃるようです。私もちょっと聞かれたこともあるのですが、一応ふれあいセンターに相談したいときは、まず窓口としてはそちらに行けばいいですか。よろしくをお願いします。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） ただいまのひきこもりの件でございますが、こちらについてはなかなかその調査も難しいというところから、全体把握はできていないのが現状でございます。しかしながら、地域の民生委員の方々とか、あるいは本人の家族からとか連絡がございまして、そちらに関わっている件があって、そちらについては継続して対応していきたいというふうに思っております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。

あと健康ふれあいセンター運営費の中にはないのですが、お風呂の話が何回か出てきますけれども、お風呂の設備は今どうなっているのでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 健康福祉課総括課長、小笠原隆人君。

○健康福祉課総括課長（小笠原隆人君） 現在使用しておりませんので、そのままになっております。今現在は何にも使えないので、ちょっと倉庫的な感じになってございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、1項を終わります。

4款2項清掃費の説明を求めます。

町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 2項清掃費についてご説明申し上げます。

1目につきましては記載のとおりでございます。

2目塵芥処理費についても記載のとおりでございますが、主な事業といたしまして、12節委託料といたしまして、高齢者ごみ出し支援事業収集業務委託料として92万2,000円を予算計上させていただいております。

3目し尿処理費について説明いたします。本町公衆トイレ清掃謝礼といたしまして17万4,000円、需用費につきましては20万5,000円、二戸地区広域行政事務組合負担金といたしまして5,820万1,000円を予算計上してございます。

清掃費につきましては以上でございます。

○委員長（上山 誠君） これで2項の説明が終わりました。

質疑ありますか。

江刺家委員。

- 5番（江刺家静子君） し尿処理費のところなのですから、本町の公衆トイレのことなのですが、くみ取り式だけれども、利用する方も結構あそこは人数が多いような気がします。それで、あふれたりする場合もあるようなのですが、中央公民館のトイレは新しく、そして障がい者用のトイレもありますので、あそこを使わせてもらえないかなと思います。もし中央公民館を壊してもトイレだけは残してほしいという声も結構あるのですが、いかがでしょうか。

- 委員長（上山 誠君） 休憩します。

午前11時41分 休憩

午前11時41分 再開

- 委員長（上山 誠君） 再開します。

教育委員会事務局総括次長、野中孝博君。

- 教育委員会事務局総括次長（野中孝博君） ただいまのご質問にお答えいたします。

中央公民館につきましては、現在電気、ガス、水道等の光熱費についてはもう全て解約いたしてございます。そのようなことから、現段階では使用していくということはちょっと難しいというふうな状況となっております。

以上でございます。

- 委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

- 5番（江刺家静子君） はい。

- 委員長（上山 誠君） ほかに。

中村委員。

- 6番（中村正志君） トイレの関係、公衆トイレが出ましたので、公衆トイレについてはほかのところにも公園費等でも、防災センターとかとあるようだけれども、ある町民の方からの声がありまして、やはり公衆トイレ利用することが結構あると。そこで洋式化してもらえないかというふうな要望がありました。実態がどうなのかは、防災センター等は多分和式だったのかなとったりしているのですけれども、その辺の状況がどうなのか、またはそういうふうな現状にあって洋式化を考える余地があるのかを含めて、ちょっと教えていただければと思います。

- 委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

- 町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） ただいまの質問にお答えいたします。

向川原のトイレ、円子のトイレにつきましても和式のほうが多いというふう感じております。あと、障がい者用のトイレにつきましては洋式になっております。

洋式化につきましては、今後検討してまいりたいというふうに考えてございます

ので、よろしくお願ひいたします。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので……

〔「1つあります」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 1つだけ。

中村委員。

○6番（中村正志君） ごみの関係ですけれども、分別回収していると思うのですけれども、生ごみのやつは何か集めてはいるけれども、ただの一般廃棄にしているというお話を聞いていましたけれども、今の状況がそのままなのかどうかお伺いします。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） ただいまのご質問にお答えいたします。

現在は生ごみと可燃ごみと分けて収集してございますが、令和6年度以降、生ごみも可燃ごみとして収集したいというふうに考えてございまして、広報のお知らせ版等でお知らせしてまいりたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） その場合の指導といいますか、なぜ生ごみを分別したかというふうな趣旨がもう10年以上前からいろいろと町からの説明等もあったと思うのですけれども、私が記憶しているのは当初、生ごみをそのまま燃えるごみとして出せば重いと、その重量によって広域の負担金が変わると、何とか広域の負担金を減らすためにも生ごみを減らしたいというふうな趣旨でいろいろな工夫をされてきたと思うのですけれども、それがまた元に戻るということになれば、果たしてその十何年前からやっていた考え方が全くもう無駄になるのかなと思うのですけれども、それこそ生ごみを出す場合でも乾かして出してくださいとか、いろんな指導が必要になってくるのかなというふうに思うわけですけれども、出す側はあんまり気にしないで出すのではないかとはい思うのですけれども、当初から始まった目的から考えた場合、その辺をどのように進めていこうとしているのか。何もなく、ただ一般ごみとしてやろうとするのか、その辺のところ、今時点でのお考えはどうか。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 町民の方には、できるだけ水を切って出していただくことを周知したいと思いますし、コンポスト、あと生ごみ処理機等の予算も増額してございますので、そちらのほうもPRしながら、そちらのほうの機

械を使ってごみを減らすような形を取っていきたいなというふうに考えてございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、4款衛生費、3項水道費。

地域整備課総括課長、中村勇雄君。

○地域整備課総括課長（中村勇雄君） 4款衛生費、3項水道費、1目水道事業整備費でございます。ページ数は83ページでございます。今年度と比較いたしまして763万5,000円減の1億2,114万2,000円となっております。

内容につきましては、説明欄に記載のとおりでございます。水道事業に対して支出するものでございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 質疑。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 説明のところに消火栓維持管理負担金とありますけれども、これはどこに支払う、どういう事業に使うものですか。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課総括課長、中村勇雄君。

○地域整備課総括課長（中村勇雄君） ただいまのご質問にお答えいたします。

消火栓維持管理負担金、これにつきましては、水道事業所で管理するものではございませんので、その代わり水道事業所で管理するに当たって、その分の費用をいただいているということでございます。水道事業所のほうでも消火栓の点検等しておりますので、そちらのほうに費用を使わせていただいています。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。なぜ今聞いたかといいますと、消火栓の上の赤いところに何か遠くから見ても分かるようにチカチカと表示されるのですけれども、あれは電池か何か入っていて光るのか。最近ここ2年ぐらいは光らなくなったので、雪が降ったりしたときにちょっと心配なのです。

〔「消防が担当じゃない」と言う者あり〕

○5番（江刺家静子君） 消防なのでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課総括課長、中村勇雄君。

○地域整備課総括課長（中村勇雄君） 消火栓の上につけて光っているもの、これは商品名ですけれども、ピカトップというものでございます。これにつきましては、太陽

光を蓄電して発光するという形になっております。ただ、そのピカトップというものにつきましても、今生産がされておらないということで、代替品等をちょっと確認はしておりますけれども、今のところはついているところとついていないところとございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

ほかに質疑ありますか。

〔「1ついいですか」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 西館委員。

○4番（西館徳松君） 今の水道費の消火栓の件で聞きたいのだけれども、今まで消防の点検のときは水道管の水が濁るから回さないでくれと、出さないでくれと言って、今度必要なとき回そうとしたら回らなくて、それはどういうふうに点検するのですか。今までも水道管が濁るから、家の水が濁るから回さないでくれと言って、いざ火事になって回そうとしたら回らなかった、現にあったでしょう。そういうものはどういうふうに点検するか。業者を頼んで今後やることになりますか。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課総括課長、中村勇雄君。

○地域整備課総括課長（中村勇雄君） 消火栓が緊急時に使えないということがございまして、四、五年前から業者を頼みまして、消火栓の点検をしているところです。ただ、1年に全てやれる個数ではございませんので、5年に1遍とか、一通り一巡させて、さらにまた点検していくという形で進めているところです。また、不具合の場所があった場合には、お知らせいただければ助かります。

○4番（西館徳松君） 分かりました。

○委員長（上山 誠君） よろしいですね。ほかにないですね。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） では、5款労働費。

町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 5款労働費、1項労働諸費、1目労働諸費について説明いたします。

主な内容でございますが、12節の委託料といたしまして、出稼労働者健康診断委託料として16万円を計上してございます。また、18節負担金補助及び交付金につきましては、各協会の負担金、補助金等につきまして45万6,000円を計上してございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 説明が終わりました。質疑ありますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） ちょっと分からないので、出稼ぎの方というのは今現在軽米町の

人数は多分把握していると思うのですが、どれぐらいの方が出稼ぎに行ってい
らっしゃっているのでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 実際の出稼ぎの方の人数は把握できてご
ざいませんが、出稼ぎ互助会というものがございまして、その互助会には2名の方
が加入してございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） いいです。

○委員長（上山 誠君） ほかに。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） それでは、ここで5款まで終わりましたので、休憩に入って、
6款を1時から再開したいと思います。

では、休憩に入ります。

午前 11時53分 休憩

午後 零時58分 再開

○委員長（上山 誠君） 1時よりちょっと早いのですが、再開したいと思います。

それでは、6款農林水産業費、1項の説明。

産業振興課農政企画担当課長、工藤薫君。

○産業振興課農政企画担当課長（工藤 薫君） 6款農林水産業費、1項農業費、1目農
業委員会費について説明します。

来年度予算額2,170万8,000円、今年度予算額に対して164万5,0
00円の減となっています。これは農業委員会の運営経費、農業委員、農地利用最
適化推進委員の報酬のほか活動経費、あと農業者年金事務に要する経費を計上して
ございます。減の主な要因は、視察研修を令和5年度行いましたけれども、令和6
年度はなしというふうなことで、その費用が減額となっているのが主な要因です。

続いて、次のページに行きます。2目農業総務費でございます。来年度予算額3,
870万3,000円、今年度比較で875万9,000円の減となっております。これは、農業全般に係る経常経費でございます。会検や新規事業の説明会等に
係る経費、あと河川の魚介類の確保等の補助金を計上してございます。減の理由で
すけれども、職員人件費以外はほぼ今年度並みとなっております。

飛びまして、88ページの4目農業経営基盤強化促進対策事業費でございます。
来年度予算額9万9,000円、今年度と同額でございます。説明欄に記載のとおり
の補助金でございます。

続いて、飛びます。89ページ、6目農業金融対策費でございます。来年度予算額30万1,000円、今年度予算比較で6万3,000円増となっております。これは、農業近代化資金等の利子補給に係る経費を計上してございます。

続いて、7目振興開発費でございます。来年度予算額932万4,000円、今年度比較で73万1,000円の増となっております。これは国営事業で整備された土地改良施設、八戸平原総合農地開発事業の施設維持管理に必要な経費を計上してございます。増の要因でございますが、補助金の増額となっております。

続いて、8目生活改善センター等運営費でございます。来年度予算額539万2,000円、今年度比較で168万3,000円の増となっております。これは、各生活改善センター、農業構造改善センター、中山間活性化施設、あと地区センターの運営上、維持管理に必要な経費を計上してございます。主な増要因でございますが、指定管理料の引上げを若干行っております。1施設8万円から10万円としてございます。

そのほか90ページに記載してございますけれども、委託料の中で晴山農業構造改善センター敷地筆界未定処理業務委託料164万7,000円を新たに計上してございます。

また飛びまして、92ページ、12目農地費でございます。来年度予算額699万1,000円、今年度比較で30万円の増となっております。これは農道の維持管理の経費でございます。そのほか農業施設等の災害対応に要する経費を計上してございます。

続いて、13目農村環境改善センター運営費でございます。来年度予算額266万9,000円、今年度比較で2万8,000円の増額となっております。これは農村環境改善センターの通常の維持管理に必要な経費を計上してございます。

続いて93ページ、14目地域営農システム推進事業費でございます。これは地域農業マスタープラン実践に向けて、様々な農業問題に対して検討するため、先進地視察に要する経費を計上してございます。

続いて94ページ、16目多面的機能発揮促進事業費でございます。来年度予算額3,958万円、今年度比較で70万2,000円増額となっております。これは増の要因ですけれども、環境保全型農業に取り組む面積を若干増やしてございます。

以上で私の部分は説明を終わります。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 予算書87から88ページのほうを御覧ください。

3目農業振興費でございます。こちらにつきましては重点施策・主要事業等のほうでご説明したいと思います。4番でございます。資源を活かした地域産業のまちづくり、こちらの1行目の親元就農給付金事業、こちらにつきましては国庫補助事

業の要件に該当しない新規就農者の方に給付金を支給したものでございます。こちらにつきましては、1人年間72万円。来年度の予算につきましては、継続分として3.5人分掛ける72万円で252万円、新規分ということで216万円、3人分を予算化しております。合わせて468万円を計上させていただいております。

続きまして、地域農業計画実践支援事業でございます。こちらにつきましては、農業者の方から要望を受け、事業化しておる県単の事業でございます。補助率につきましては県が3分の1、町が6分の1で2分の1となるものでございます。来年度の事業費につきましては3,089万1,000円を計上してございます。

続きまして、工芸作物生産振興事業でございます。こちらにつきましては、葉たばこ、ホップの活性化等を図るために、町単でございますが、葉たばこにつきましては地力増進対策ということで堆肥散布圃場10アールにつき2,000円、立ち枯れ病予防ということで消毒用の資材1袋につきまして2,500円、あとホップ生産振興事業としまして販売生産量、3等品以上1キロにつき30円の給付を行うものでございます。

次に、鳥獣被害防止対策事業でございます。291万6,000円を計上しております。こちらにつきましては、今年度よりも増額計上したものについてご説明したいと思います。こちらにつきましては、消耗品になりますけれども、ニホンジカ、イノシシ用のくくりわなということで……すみません、少々お待ちください。

○委員長（上山 誠君） 休憩します。

午後 1時07分 休憩

午後 1時08分 再開

○委員長（上山 誠君） 再開します。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） こちらにつきましては、ニホンジカ、イノシシ用のくくりわなということで消耗品12万1,000円を計上させていただいております。

次に、狩猟用免許取得費補助ということで11万円掛ける2人分、22万円。あと新規でございますが、猟銃等の購入補助10万円掛ける2人で20万円、ガンロッカーの購入に対する補助ということで5万円掛ける2人で10万円、こちらで新規の狩猟免許取得者の補助をして実施隊員の増に努めてまいりたいと考えております。

最後でございます。軽米町電気柵等設置補助金、こちらにつきましては今年度まで上限10万円のところを30万円に引き上げて5件分で150万円計上してございます。

6款1項3目につきましては以上でございます。

次でございます。重点施策・主要事業等でございます。畜産産地づくり強化対策事業でございます。予算書のページは91ページを御覧ください。こちらにつきましては、内容としましては町単の補助事業でございます。ブロイラーと肉豚の経営安定対策事業、あと畜産共進会の開催に対する補助、あと優良馬と繁殖雌牛の増頭支援事業に対する経費を計上してございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） それでは、私からは3目農業振興費の中の6次産業化推進事業費につきましてご説明させていただきます。

予算書は87ページになりますが、令和6年度も今年度に引き続き軽米町商品開発等促進事業補助金等の経費を予算計上してございます。主なものといたしましては、7節の報償費の中に商品開発等推進事業審査員謝礼、それから18節の負担金、補助及び交付金の中に、88ページになりますが、軽米町商品開発等促進事業補助金、上限20万円の5件分を見込みまして100万円の予算を計上させていただいております。

それでは、飛びまして93ページでございます。15目ミレットパーク等管理運営費につきましてご説明いたします。こちらにつきましては、令和6年度の当初予算額が2,089万1,000円で、今年度に比較いたしまして261万6,000円の増となっております。こちらの経費は、ミレットパーク及びミル・みるハウスの運営、維持管理に係る費用を計上したものでございます。主なものといたしましては、12節の委託料、ミレットパーク、ミル・みるハウスのそれぞれ指定管理委託料を計上しております。

また、14節工事請負費でございますが、ミル・みるハウスプレハブ冷凍庫改修工事費を計上してございます。こちらは、さるなしたまご、それから先日発表いたしましたさるなしもっち等の冷凍食品、こちらの売行きが好調でございまして、今まで使っていなかった冷蔵冷凍庫を使用したいということで、故障で使えなくなっていたものを改修するものでございます。

それから、17節の備品購入費ですが、ミル・みるハウスに設置しておりますファンヒーター1台が故障して動かない状態となっておりますので、こちらの購入費を計上してございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 税務会計課総括課長、古館寿徳君。

○税務会計課総括課長（古館寿徳君） では、92ページをお願いいたします。

11目国土調査費であります。国土調査費につきましては、予算額は今年度と同額の58万円でございます。国土調査事業の成果に誤りがあった場合、修正業務に

必要となる測量等の経費を計上しているものであります。

以上です。

○委員長（上山 誠君） これで全て説明が終わりました。1項農業費の説明終わりましたので、質疑を受けたいと思います。質疑ありませんか。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 鳥獣被害防止対策で、こちらに計上しているのは56万円ですが、先ほど説明した291万円というのは合致したお金をお話ししているのですか。それとも、言っている場所が別ですか、ちょっと伺いたいのですが。ページ88の一番上。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 鳥獣被害対策の予算でございますが、農業振興費、6款1項3目でございますが、こちらも様々な事業が一緒になっておりまして、の中で鳥獣被害対策の予算としましては、先ほどちょっとお話ししましたけれども、旅費、消耗品、補助金、その他みんな足して、重点施策・主要事業等の説明書の291万6,000円、こちらの数字になります。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） 分かりました。

あともう一つお願いというか、確認しておきたいのが、事業が進まない要因が1つあって、捕獲した鳥獣を処理する方法がうまくいなくて、捕ったはいいが、その後の処理ができない状況に、どこの地域もなっているようなので、その処理の仕方について提案というか、よそに問い合わせにも行ったのですが、ここにもう一つあるのですが、二戸へい獣処理の協会に入っているわけですが、そこで処理できるような方法も検討していくような形でないと、全部捕って解体をして焼却炉に持っていくというのは、なかなかどこでも進まないみたいなので、できればそのまま引き揚げたのを処理できる方法も常時これから考えていく必要があると思いますので、そこら辺の検討もお願いいたします。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） そちらの処理等の方法につきましては、今後猟友会、鳥獣被害対策実施隊の方々と一緒になって検討してまいりたいと思います。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○1番（田中祐典君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 93ページのミレットパーク等管理運営費ということで、ミル・みるハウスの経費が出ているのですけれども、経費というか長い板に巻くように

してバウムクーヘンを実演したり販売したりしていたのですけれども、今はあれは焼いたりはしていないのですか。使っていますか。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ミル・みるハウス、真ん中の入り口入った左側にバウムクーヘンを焼く機械等を設置して焼いていただいておりますが、今現在どれぐらいのペースで焼いているかというような情報は把握しておりませんので、ちょっと確認した後ほど答弁させていただきます。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。

○5番（江刺家静子君） ありがとうございます。

○委員長（上山 誠君） 江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） そのバウムクーヘンの機械も何か閉まっているから、やめたのだろうかと聞かれたものですから、分かりました。後でいいです。さっき調べてきますと言われたので。

○委員長（上山 誠君） では、ほかに質疑。

西館委員。

○4番（西館徳松君） 非農地判定するときにドローンを使っていると思いますけれども、それは毎回非農地判定にドローンを使っていますか。回数ほどのくらい使っていますか。利用率をお願いします。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課農政企画担当課長、工藤薫君。

○産業振興課農政企画担当課長（工藤 薫君） ただいまのご質問ですけれども、農地判定の際ドローンというふうなことですけれども、確かにその判定に生かすためにドローンを導入して、令和4年度ですか、やっていたけれども、ちょっと調子が悪いといいますか、風に弱いといいますか、ちょっとした問題があって、本当に小型のドローンで風に流されやすいとか、木の陰になるとちょっと動かないとか、そういう問題があって、なかなか使えていない事情もありますけれども、今後そういうふうな部分を改善しながら活用できる場所で活用していきたいと思います。

○委員長（上山 誠君） 西館委員。

○4番（西館徳松君） これは全然20年も30年も入ったことのない山の中にぽつんとあるものだから、なかなか人が入っていくというのも大変だから、やっぱりドローンを使ったやり方をしないと、どこの地区もそうであります。ドローンをもう少し利用できるようにしてもらいたいなと思って、そうでないと農業委員が山に入っていくといっても全然道路もないから、だからそれはドローンをもう少し利用できるようにしてもらいたいなと思って。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課農政企画担当課長、工藤薫君。

○産業振興課農政企画担当課長（工藤 薫君） ただいまおっしゃったとおりの理由で導

入したものですので、何とかうまく活用したいと思います。

○委員長（上山 誠君） ほかに。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 電牧設置についてですが、町長の答弁で個体の適切な捕獲と柵の設置等による被害防除、放任果樹園の伐採や刈り払いによる餌場、隠れ場所の排除ということでお話を3つほど挙げていましたが、この地域ぐるみでやっている状況はどのような状況でしょうか。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 地域ぐるみというか、今後地域で鳥獣被害対策の説明会等を開催して、あと電気柵等については、できれば集落ぐるみで張っていただいたほうが効率がいいのかなと思ひまして、そういうのをこちらのほうで情報収集しながら、そちらの大きい面積の電気柵については交付金の活用を検討してまいりたいというふうな内容で考えております。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） ということは、これから取り組むという認識でいいですか。広報活動もこれからということですか。

〔「はい」と言う者あり〕

○1番（田中祐典君） それは、雫石町に行ったときもそうですけれども、放置されている場所が多いと農作物の影響も多いということなので、ここだとやっぱり限界があって、隣はいいがというので、その取組が必要ということなので、大変いいことだと思いますので、積極的にその地域を大きな形での電牧柵の必要があると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あとは、電牧でも、この前言っている中で、小さい人たちもあるみたいなので、ここの町なかに来るとか、そこら辺の対応はこれから農業者でなくて、菜園とかという人たちもあつたような記憶があるのですが、そういう電牧柵についての考え方はどういうふうに考えていますか。小さくなるのですけれども。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 先ほどお話しした町単で上限30万円ということですので、小さな面積についてはそちらのほうの補助金を活用していただいで対処していければなど考えております。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。田中委員。

○1番（田中祐典君） いいです。

○委員長（上山 誠君） では、ほかに。

細谷地委員。

○10番（細谷地多門君） 関連ではありませんが、ちょうど1年前の今頃ですか、私は

一般質問しました、畜産の経営の困難で。特に牛の経営が大変だという一般質問しましたが、その中でもお話ししましたが、実はある畜産農家で、この間私はたまたま今の状況、あれから1年過ぎただけけれども、どういう経営状況か、それから様々な環境がどうなっているかというのを聞いてきました。本当は何人からか聞いたのですが、時間の関係上、1軒しか聞けなかった。乳牛の更新については、1年前の当時の状況から見れば、ミルク代ぐらいいは何とかなると。殺処分までは至っていないというような感じで、そういう部分では一安心しました。ただ、経営面でいくと利益が出ないと。なぜかという、乳価は多少上がったのはいいが、餌が高騰したまま高止まりというのか、上がったままで、もう下がる要因がない、要素がないというようなことで、その今の状況で何とかしのいでいくしかないというような。そうすると、よくマスコミ等でも報道されているのですが、粗飼料を地元で生産して何とかと国はいろいろしゃべっているようですが、なかなか口では簡単に言うのですが、それを外国の餌の輸入を減らして、国内の安定したある程度の自給を賄って、飼料、餌を作っていくというようなこと。狙いは理想で、大変結構な話なのですが、ただ現実には厳しいという。担当課のほうでも、その辺はいろいろ情報収集したり、把握したり、また農家のこれからの大きな課題なわけですが、持続可能な経営ということに向ければ、いろいろ模索しながら、国とか県あるいは町村の独自の事業とかいろいろ組み入れながらやっていかなければならないなというのを強く認識しているかと思うのです。

そこで課長、乳牛だけではなく、和牛も全部含めて、肥育も含めて、畜産農家の今の状況はどうなっているのかということをお聞かせ願えればと思います。どういうように担当課では認識しているのか、今の状況をお話してください。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 細谷地委員の質問にお答えします。

町としましては、当然乳牛、繁殖牛、肥育牛様々ございますが、一番多いところでは繁殖牛でございますが、市場の価格、こちらにつきましては以前より少し持ち直しているが、まだまだ40万円台、50万円台で、以前のように60万円、70万円という価格には回復しておりません。肥育につきましても、繁殖につきましても、酪農につきましても、いずれ飼料、配合飼料、複合飼料、そちらは高値でそのまま取引されていると。それにつきましては町としましては、先ほど委員がおっしゃいましたけれども、自給率を上げる取組、県でも国でもいろいろ補助事業等を打ち出しておりますので、それを実行していけるよう農家を支援してまいって、少しでも肥料、飼料の自給率の向上に尽力してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 細谷地委員。

○10番（細谷地多門君） 課長の認識は大体同じかなと思っていました。それで、その取組についてよどみなく農家の経営状況を把握しながら支援していくという姿勢をね、これ何とか貫くというか続けていかないと、だんだん後継者不足になって飼育農家が減っていくと。農業の耕作者も今そっちの委員からも出ましたように、大変と耕作人口が減っているのだと。要するに耕作放棄地が増えていると、そうなる大変だなと思って、その点も。

それから、課長、あれだそうです。町長からも真剣に聞いてほしいのですが、粗飼料の生産、これを効率よく、もう少しねじを巻いてやったらどうかというのも私は勝手な思いでしゃべってきたのですが、さっき同僚委員が言っている鳥獣被害、それとやっぱり並行しているのだね。もうデントコーンなんか全滅だそうです、うちのほうで。何町歩もやっているところもやめたという。何でかといえば熊、鹿、イノシシの被害。そうすると、熊なんか毎年畑に来るといふ。決まって来るそうです、一回味をしめると。だから、それに電気柵をやって抵抗したのはいいが、なかなか太刀打ちできないと。結局牧草にやったと、もうデントコーンの畑をやめたと言っていました。中には他の町村から広い草地を借りて、軽米町以外の隣の町村に行って借りてやっているというような方もあるようです。そんなのを聞くと、鳥獣被害というのは大変だなと思います。言い方悪いかも知れませんが、小手先の鳥獣被害をやったって、なかなか被害状況を減らせない。むしろだんだんに倍々と増えていく。もう手後れになると大変だなと思っていました。その辺の状況を我が町も切実に考えながら手を打っていかないと。例えば生け捕りにして遠くの山に放すとかという、よくテレビなんかでもやっているようですが、そういう状況ではないなと思っていました。絶対頭数を減らしていかないと、どうにもならないのではないかなと思っていました。同じ生き物とすれば、かわいそうですけれども、ただ人間の生活の営み、経営を考えれば、やむなしの処置かなと、そう思っていました。この部分で捕獲、もう殺処分、そういうのを計画的にねじを巻いて取り組まないと、議会でもいろいろ議論するのだけれども、決め手がないまま大体どこの地域も頭数がどんどん上がっていくと。そういうのを3年後、5年後、7年後というような感じで相当出ていますから、今のうちに本腰を入れてそれもやっていかないと、畜産経営にも非常に影響するなと思っていました。この点について、どのようにこれから考えていくべきかというようなお話しいただければなと、そう思います。

あと1点、畜産の関係でついでにしゃべりますが、毎回私は言ってきているのですが、馬産振興という問題で、もう振興にならない、自然消滅になるなと思っていました。間もなく来月の第2土曜日ですか、満1歳、数えの2歳の競りがあるわけですが、県外からも集まる、軽米町からも何頭か集まるのかな、できれば各委員の方からも見てもらえばいいかなと思っていましたが。本当になくなる状況で、私は

町長にお願いしたいのは、草地で馬の放牧についてはただでいいから放してくれと、置ける人は置いてくれというぐらいを打ち出していかないと、放牧料をいささかもらっても、それでもまず歯止めが利かないと思います。これらを本当に言葉だけでなく真剣に考えていかないと、このままなくなってしまうといいのかなと思います。南部駒踊りの伝統芸能でないけれども、あれはああいう文化的な昔のものでしかならなくて現実馬がいなくなってしまうと、そういう形態にならざるを得ないかなと思っていました。どうすればいいのか、やはり真剣にこの辺も、若い置く人、置ける人、置きたいと思っている人を支援して後継者をつくっていかないと、本当にゼロになってしまうなと思っていました。この点について、どのように認識しているかお聞かせください。

○委員長（上山 誠君） 町長、山本賢一君。

○町長（山本賢一君） 私も先般1月、和牛の初競り市に行きまして、大変頭数が減っていると、それからまた農家数も減っていると、大変今委員おっしゃったような状況がかなり深刻に伝わってまいりました。

そういった中で、従来から軽米町は畜産というのは重要な産業でございますので、特にこれからの粗飼料の確保、牧野を増設する、あるいは畑からのデントコーンあるいは飼料米等の拡充を図りながら、地域内でうまく循環できれば、そしてまた出てきた排せつ物は堆肥にしながら地域内で循環できるような状況をきちっと前向きに検討してつくっていかねばいけないなというふうなことを感じております。特にこれからもまた飼料高騰とか、様々な物価高騰に合わせて、この状況は恐らく続くというふうに思いますので、今後ともそういったことをしっかりと捉えながら進めてまいりたいというふうに考えています。

以上であります。

○10番（細谷地多門君） 馬産振興は。

○町長（山本賢一君） 馬産振興に関しましては、値段は和牛とかほかのに比べますと非常に高値で推移しているようでございますので、何とか後継者を発掘しながら、できるだけ持続できるような対応等はしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 細谷地委員。

○10番（細谷地多門君） 町長から今お話を伺いました。それで認識はいつも同じであります。認識は同じだけれども、それに見合った本気度とといいますか、言い方悪いのですが、そういうアクションを起こすほどの実態が感じられないということです。

確かに馬産のほうは市場価格はいいみたいです。私も去年あたりびっくりして見ていましたので、それはいいのですが、ただ我が町の馬の頭数はそうはいかないと。これ本当に、今80代の人たちが二、三人頑張っているような状況で、その人たち

が動けなくなれば終わってしまう状況です。やっぱり町長は考え方、認識、言葉だけでなく、実際アクションを起こさないと、本当に後継者をつくれなくなって、このまま終わってしまうということを危惧していました。答弁はいいのですが、そういう認識でこれからぜひ言葉だけではなく、アクションを起こして取り組んでいただくことを切に要望したいと思います。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑。

中村委員。

○6番（中村正志君） 農村公園が町内あちこちにあると思うのですけれども、ここに書いてある農村公園敷地借上料は山内と観音林だけがあるのですけれども、ということのほかの農村公園は全て町有地だというふうに捉えていいのか。または借上料がかからない土地なのか、その辺のところの状況をちょっと教えていただきたいのと。

草刈りの委託料を掲げていますけれども、全ての農村公園の草刈りの謝礼を出しているのか。それとも、所によっては無償ボランティアでやっているところも別々にあるのか、ちょっとその辺の状況を知りたいのですけれども。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課農政企画担当課長、工藤薫君。

○産業振興課農政企画担当課長（工藤 薫君） ただいまのご質問の農村公園敷地借上料についてでございます。おっしゃるとおり、観音林と山内2か所のみ実際にお支払いしてございます。ちょっと全部は掌握していませんけれども、ほとんどは町の敷地だと思っております。無償の場所もございます、車門とか。あとは上円子は学校跡地の部分です。

草刈り業務のお話ですけれども、現況草刈り業務は職員で直営でやってございます。年に2回ほどやっていますけれども、ちょっと人手が足りなくなってきて、業務の効率を図るという面で今年度新たにお問い合わせしたものでございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） 1つ確認ですけれども、向川原のこぶし公園というのなのか、たてぐし公園なのか、向川原農村公園、何と呼べばいいのかあれですけれども、あそこも町の所有ですか。というのは、私たちも子供の頃からあそこはたてぐし公園ということで遊び場の一つでもあったし、町がみんな見えて、シンボリックな部分もないわけではないと。今バイパスもできて、結構車がそこに寄って休憩したり、トイレに行っているのか分からないけれども、意外と行っているふうに感じたりもして、私もあそこでウォーキングしたりして、何かそういうふうに意外だなと思っていましたけれども。ただ、その整備状況がどうなっているのかなど思ったり。かつてこぶしサミットをやって、あそこに何本かコブシを植えたりしたのですけれども、それもどうなっているか、私も見ていないのですけれど。ブランコ等もあったり、そ

の辺の状況がどうなっているのか。また、もしあまりよくない状況なのであれば、少し整備して、みんな使えるような状況をつくってもいいのかなというふうに、ましてやあそこだと町の全体が見えるような場所でもあるしなと思ったり、ちょっと私は思っているのですけれども、ただ手つかずの状況なのかなと。向川原の方が草刈り等でのボランティアでもやっているのかなと思ったりもしていますけれども、その整備状況はどういう状況なのでしょう。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課農政企画担当課長、工藤薫君。

○産業振興課農政企画担当課長（工藤 薫君） 向川原農村公園のお話をいただきました。敷地については、私は町のものかなと思っております。草刈りの関係も、向川原の町内会といいますか、有志たちからボランティアで毎年きれいにやっていただいて、大変感謝してございます。

整備状況というお話ですけれども、現況トイレとあずまやがある程度でございませう。遊具についてはちょっと危険だというふうなことで、昨年度撤去いたしました。今後の整備というふうなことです。そこまでは現在のところ考えておりません。以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） 実際あまり現状を把握できていないのではないかなというふうに聞こえますので、まずいずれ現況を少し把握した上で、実際トイレも使えるような状況なのかも含めて、整備の必要性等を検討していただければなと思っておりますので、よろしく願います。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） 実は昨年、一昨年と山内の農村公園と観音林の農村公園のベンチとかトイレの目隠し等、修繕料のほうで修繕させていただいておりますので、向川原の農村公園につきましても、あずまや、その辺、トイレ等を再度確認しながら修繕料のほうで対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑。

西館委員。

○4番（西館徳松君） さっきから言っているような電気柵のあれでも、結局この間遠野市に行ったときもその話になったので聞いたら、私が農業委員の会長やっていたとき東京都に行ったとき、今遠野市の市議会議員やっていますけれども、その当時の会長が、当時は年間650頭から670頭捕ってもどうにもならないから、自衛隊が来て撃ってくれないかと言って、そういう話を国会議員に陳情しましたけれども、一緒にやろうと私この間言われたけれども、私は相手にしなかったけれども、それが結局電気柵やっても元をなくさない限りは増えていって、年間2,500頭、1,

600頭だったかな、そのぐらい増えて、鹿はどうにもならないの、一気に増えて。それで、結局散弾銃では捕れないからハーフライフル、そっちにも補助金出して、警察のほうで駄目だと言ったけれども、閣議決定すればいいことになったけれども、それでないと、50メートルも飛ばないから、散弾銃の場合は。ハーフライフルで100メートル、200メートルだから、それでないと捕れないのです。そこら辺のハーフライフルの補助のほうを考えてもらいたい。電気柵ははっきり言って無駄だと言われてきました。要するに元をやらない限りは、春に生まれたのが次の年はまた鹿が生まれるから、春に生まれたら、次の年の春にまた産むから、だからどんどん増えていくから、元を絶たないと駄目なのだよと言って、この間遠野市に行ったとき、向こうの担当者に言われてきた経緯があって、その辺もう少し電気柵ではなく、元を絶つような、猟友会のほうにももう少し補助を出すとかやって、とにかく頭数を減らすような方向を考えてもらいたいと思っていますが、どうですか、その辺。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） おっしゃるとおりだと思います。今後につきましては猟友会の皆様、実施隊の皆様、あと関係機関の皆様等と協議しながら有効な手だて、今まで私もちょっと電気柵をすれば寄ってこないのかなと思っていたのですが、それもあんまり効かないというお話を今伺いしまして、猟友会等の実際に活動していただける方々の支援、あと増員、あとは地域の方々がサポートできるような体制、そういうのを今後検討して対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○4番（西館徳松君） ライフルのほうの補助も考えてもらいたいなと思って。ハーフライフル。

○産業振興課総括課長（竹澤泰司君） そちらにつきましても、ちょっと内部で検討しながら、猟友会の皆さんとお話しさせていただいて検討してまいりたいと考えております。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。ほかに。

中村委員。

○6番（中村正志君） ちょっと分からないので、教えてほしいのですが、93ページにミル・みるハウス電気自動車充電器使用料とありますよね。これはどういうことですか。充電器を使用することなのか、ちょっと意味的に理解し難いのですけれども。

〔「ちょっと休憩を」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 休憩します。

午後 1時48分 休憩

午後 1時59分 再開

○委員長（上山 誠君） それでは、再開します。

答弁を。産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 先ほどの中村委員のご質問にお答えいたします。

ミル・みるハウスに設置してあります電気自動車用の充電器の決済システムの使用料でございます。課金システムです。うちのほうで直接利用者から利用料をいただいているわけではなく、管理会社を通して、一旦そちらでお金を徴収して、それからうちに使用料相当分が入ってくる形となっていましたので、そちらのシステムの使用料です。

○6番（中村正志君） 電気自動車の使い方知らないから。

〔「使われているの」と言う者あり〕

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 急速充電器のほうはある程度、周りに比べればそんなに使用頻度は高くないようでございますが、普通充電器については最近ではほとんど使っていらっしゃる方がいないような状況です。

〔「カードか何かでやるの。利用するとき」と言う者あり〕

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） そうです。専用のカードを充電器にかざしていただいて。

〔「そのカードはどこから買うの」と言う者あり〕

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 電気自動車を買うときに一緒に買うか、別個に決済システムを構築している会社に申込みをしてカードを手に入れるという形です。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。

○6番（中村正志君） いいです。勉強しますから。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） それから、先ほどの江刺家委員の。

○委員長（上山 誠君） では、続けて。何でしたっけ。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） バウムクーヘン。

○委員長（上山 誠君） バウムクーヘンの話。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 先ほど江刺家委員からご質問のありましたバウムクーヘンをやっていないのかというお話ですけれども、今確認してきましたが、焼くには焼いているようで、実際ミル・みるハウスでも販売はしております。ただ、頻度としては2週間に1回程度、大口の注文、予約等が入れば何日か続けて焼いている場合もあるということですので、やめてしまったわけではなく、商品の引き合いに合わせて焼いているようでございます。

以上でございます。

〔「ロールになったやつ」と言う者あり〕

- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君）　そうです。
- 委員長（上山　誠君）　よろしいですか。
- 5番（江刺家静子君）　はい。ありがとうございます。
- 委員長（上山　誠君）　ほかに質疑ございますか。

〔「なし」と言う者あり〕

- 委員長（上山　誠君）　ないようなので、ここは終わりますして、6款2項に移りたいと思います。林業費。

産業振興課総括課長、竹澤泰司君。

- 産業振興課総括課長（竹澤泰司君）　6款農林水産業費、2項林業費についてご説明いたします。

1目林業総務費でございます。来年度は今年度と比較して457万7,000円の減額となっております。内容につきましては、ほぼ今年度と同様の内容で予算計上させていただいております。減額の内容につきましては、24節積立金でございます。軽米町森林環境整備基金元本積立で、こちらが来年度は730万円程度から340万円に減額になった部分で400万円程度の減額となっております。

続きまして、2目の林業振興費でございます。こちらにつきましても、今年度とほぼ同様の内容の予算計上となっております。1か所、ちょっと増額した補助金がございます。負担金、補助及び交付金でございます。軽米町森林整備事業補助金、こちらにつきましては令和6年度は100万円増額で予算を計上させていただいております。内容につきましては、岩手県の森林整備事業の実施者に対する1割の加算補助の内容となっております。

3目の林道費でございます。こちらにつきましては、林道の維持等に係る経費を計上させていただいております。

以上でございます。

- 委員長（上山　誠君）　産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。
- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君）　それでは、私からは4目雪谷川ダムフォリストパーク・軽米管理運営費についてご説明申し上げます。

こちらにつきましては雪谷川ダムフォリストパーク・軽米の管理運営に要する経費を計上させていただいております。主なところといたしましては、雪谷川ダムフォリストパーク・軽米指定管理委託料、それから森林保険料等となります。

それから、14節の工事請負費に、フォリストパーク園内木柵修繕工事395万6,000円計上させていただいております。こちらは園内にあります木柵が大分古くなってきて、ちょっと危険な箇所とか見栄えの悪い箇所等が出てきましたので、

こちらをちょっと単年度では無理なので、3年間かけまして順次更新、修繕してまいりたいと思ひまして、こちらの経費を計上させていただいております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 林業費の説明が終わりました。

質疑を受けたいと思ひます。質疑ありますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 雪谷川ダムフォリストパーク・軽米管理運営費で消耗品費が43万2,000円あるようですけれども、消耗品にしては金額が大きいのですけれども、どういう内容のものでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） こちらの消耗品、主なもの、ほとんどそうなのですが、次年度用のチューリップの球根の購入費となっております。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） はい、分かりました。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 雪谷川ダムフォリストパーク・軽米の関係のトイレは、去年ちょっと提案したのですが、改修というか、皆さん来たときに、くみ取り式ではなくて、できれば簡易水洗にしてはいかがかという意見をした思いがあったのですけれども、今の状況はどういうふうになっているでしょう。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 現在、雪谷川ダムフォリストパーク・軽米のくみ取り式のトイレというのはステージ脇のトイレのことだと思いますけれども、そちらの簡易水洗化ということでございますが、キャビンの脇に3か所、くみ取り式のトイレがございまして、そちらの水洗化、排水先等、浄化槽も併せてですけれども、ちょっと検討をしたいと思っておりますけれども、まだ現状どうしようというような具体案はちょっと出ておりません。申し訳ございません。

○委員長（上山 誠君） 田中委員。

○1番（田中祐典君） 浄化槽をつけなくて簡易的な水洗があるので、それでもいいのかなと思うので、それだと上だけ設置をすればいいので、そういう対策でも経費的にはかからなくていいのかなと提案した思いがあったのですけれども、浄化槽とかそういう設備をすると経費もかかるし、早急にできない。上のほうに前テニスコートがあったほうにも、そういうトイレがあったみたいですが、そこは改修というか、簡易的なトイレになったような話も聞いていたのですが、そこら辺を確認します。何か所かは、そういうふうに浄化槽をつけなくて簡易的にできるので、そうい

うふうな対応でもいいのかなと思うので。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 今のトイレのお話でございますが、コロナ禍の際に、いわゆるコロナ交付金を利用いたしましてトイレの洋式化ですとか自動水栓化等を行ったトイレが何か所かございまして、今田中委員がおっしゃっているトイレは、あまり使用頻度も高くないトイレといたしますか、古いトイレで、ちょっと未改修のまま残っておりますので、これから順次トイレの改修、あるいは周りのトイレの統合等を併せて検討してまいりたいと思いますので、ご理解をいただければと。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○1番（田中祐典君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、では6款を終わります。

では、7款商工費。

産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） それでは、97ページからになりますが、7款商工費、1項商工費、1目商工総務費でございます。こちらにつきましては、職員の人件費等となってございます。

続きまして、2目の商工業振興費でございます。こちらにつきましては、町内の各種事業者の支援、それから商工会への支援、それから軽米町の移住支援金、補助金ですね、こちらに係る経費を計上してございます。令和6年度の予算額が5,549万5,000円、前年比で8億2,752万9,000円と大きな減となってございますが、かるまい文化交流センターの建設事業費がこちらの目に含まれていたため、そちらの減が主なものでございます。

主なものとしたしましては、1節の報酬、それから3節の職員手当等、4節の共済費、7節の報償費等でございますが、先日も話題になっておりましたが、今年度まで地域活性化起業人で任用されていた方につきましては、令和6年度も引き続き軽米町産業開発の経営改善に向けての指導及び誘致企業等の関係事務をしていただくための会計年度任用職員1名分の経費を計上してございます。

それから、この中でいきますと、物産交流館敷地借上料です。次のページになりますが、13節の使用料及び賃借料のほうに敷地借上料、それから前のページになりますが、12節の委託料のほうに物産交流館指定管理委託料を計上させていただいております。

それから、14節の工事請負費になりますが、物産交流館の屋根のほうが大分塗

装が傷んできておりまして、強い雨等が降った際にちょっと雨漏りもするようになってきてございますので、令和6年度において屋根の塗装工事を予定しております。

それから、18節の負担金、補助及び交付金についてですが、今年度に引き続いての補助金、交付金、負担金等の計上となっております。その中で軽米町移住支援金につきましては130万円、補助金の計上をさせていただきます。

それから、続きまして3目の観光費でございます。こちらにつきましては、町の観光事業、イベント等を行うための観光協会への補助金等をはじめまして、各種県内の観光団体等の負担金等を計上してございます。そのほか、町の観光・防災Wi-Fiステーション保守管理等に係る経費を計上してございます。

また、12節委託料でございますが、来年度新しく計上いたしました観光情報発信Wi-Fiネットワークカメラ管理業務委託料でございますが、こちらは雪谷川ダムフォリストパーク・軽米のチューリップの開花時期にチューリップの開花状況についての問合せが非常に多く寄せられておりますことから、インターネット等を通して現在の開花状況等を公開できるようなカメラを設置する予定でございます。

その他、18節の負担金、補助及び交付金等につきましては、コロナ禍が明けたこともございまして、軽米町観光協会補助金はコロナ禍前のイベントができる程度のもを見込んで予算計上させていただきます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 町民生活課町民生活担当課長、鶴飼靖紀君。

○町民生活課町民生活担当課長（鶴飼靖紀君） 4目の消費者行政推進費について説明いたします。

消費者救済基金貸付預託金といたしまして400万円を予算計上してございます。これは、岩手県信用保証生協が実施する制度で、市町村からの預託金を預けることにより信用生協からお金を借りて生活再建や多重債務の解消に努めるものでございます。

また、二戸消費生活センター事務委託負担金といたしまして253万円を予算計上してございます。こちらは、二戸管内4市町村が負担金を出し合い、共同で二戸地区に消費生活センターを設置しておりますので、そちらの負担金となっております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） それでは、続きまして100ページになりますが、5目地場産業振興費についてご説明申し上げます。

こちらにつきましては、重点施策・主要事業等の説明資料にあります4番、資源

を活かした地域産業のまちづくりの中の一番最後の項目になりますが、地域創造促進事業435万3,000円が、こちらの目の中に含まれてございます。内容といたしましては、軽米町の特産品等の販売促進に係る事業の委託料、12節の委託料の中にありますが、地域創造促進事業委託料235万8,000円、それからサルナシの振興に係る委託料でございますが、さるなし振興事業委託料199万5,000円、こちらのほうを合わせて435万3,000円を計上しているものでございます。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） 再生可能エネルギー推進室長、日山一則君。

○再生可能エネルギー推進室長（日山一則君） すみません。先ほど2目の商工振興費の関係でございましたが、98ページを御覧いただくとともに、重点施策・主要事業等にも掲載しておりますが、そちらも併せて御覧いただきたいと思っております。

4番の資源を活かした地域産業のまちづくりということで、新規求職者等地域雇用促進奨励金1,457万6,000円を計上させていただいております。予算書は98ページ、18節でございます。こちらにつきましては、新規求職者の奨励金は、令和5年度は16社に734万4,000円を交付しているところでございます。令和6年度につきましては、その実績を基に3年目、2年目、1年目を見込みまして、この予算を計上させていただきました。よろしく申し上げます。

○委員長（上山 誠君） 以上で7款商工費の説明が終わりました。

質疑ありませんか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 97ページの委託料ですけれども、若年者定着促進事業業務委託料40万円というこの内容を教えてください。

○委員長（上山 誠君） 休憩します。

午後 2時18分 休憩

午後 2時19分 再開

○委員長（上山 誠君） 再開します。

産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 申し訳ありません。こちらは、二戸管内の4市町村で合同して行っておるものでございますが、若い方といいますか、就職して間もない方の職場へのなじみですとか、早期離職がないようにということで様々な研修会等を合同で開いているものに係る委託料でございます。管内の事業所数の総数で軽米町内の事業者数を割った負担割合での負担金といいますか、委託料ということで計上させていただいております。

- 6 番（中村正志君） どこに払っているの。相手先は。
- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） こちらは、二戸……
- 委員長（上山 誠君） ちょっと休憩します。

午後 2 時 2 0 分 休憩

—————
午後 2 時 2 1 分 再開

- 委員長（上山 誠君） 再開します。
- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 委託先でございますが、二戸雇用開発促進協議会のほうに委託というような形になっております。
- 委員長（上山 誠君） 中村委員。
- 6 番（中村正志君） そこが各事業所を回って、若い人たちが早期に辞めないような何か手だてを講じるという事業内容なのでしょうか。具体的にそういう、今年始まったことではなくて、これまでもあったのであれば、そういうふうな指導されていたのか、そういう実態はどうなっていますか。
- 委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。
- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 様々な研修会等の開催ですとか、企業のほうでの若手職員への接し方といいますか、そういうものの研修会等を開催しているものでございます。若手職員がスキルアップしていくための研修会ですとか、反対に企業のほうで若手職員を育てるためのセミナーといいますか、各企業のそういう担当の方を集めての研修会等を行っている事業でございます。
- 委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。ほかに質疑。
江刺家委員。

- 5 番（江刺家静子君） ちょっと細かいことですが、商工業振興費の報償費 26 万 8, 000 円、企業訪問謝礼品となっております。これ 26 万 8, 000 円というのは大きい金額ではないのですが、例えば 2 万円ずつの謝礼品を持っていくと 13 回とか、1 万円相当だと 26 回ぐらいは訪問するということなのですが、例えば今年度の例だとすると、これはどのような使い方をされているのですか。何回ぐら行っていますか。

- 委員長（上山 誠君） 休憩します。

午後 2 時 2 4 分 休憩

—————
午後 2 時 2 4 分 再開

- 委員長（上山 誠君） 再開します。
産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。
- 産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ちょっと手持ち資料がございませんので、

調べてから回答させていただきます。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。ほかに質疑ございますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 軽米秋まつり山車団支援交付金、また来年度も交付されるということですが、山車団は確かに資金繰りも大変だという、それはそれでいいのですけれども、併せてお祭りに欠かせないのが郷土芸能でもあるなど。郷土芸能の担当は教育委員会事務局かもしれないのですけれども、併せて軽米秋まつりを盛り上げるために郷土芸能を休止したといいますか、休んでいるところの掘り起こしとか、何かその辺を教育委員会事務局と一緒にやってもいいのではないかなと思うわけですが、その辺のところの話合いはなかったのか。

あわせて、私も昨年ちょっと一般質問で話しして、やはり次のことはもう終わったらすぐに反省会等をして、次年度に備えるべきではないかと言ったら、すぐにやるというふうな話をされていまして、今年度に対しての軽米秋まつりの考え方というのをどのように、各団の反省等を基にして進めようとしているのか。この2点を教えてください。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ただいまのご質問にお答えいたします。

最初に、休止している郷土芸能の団体の掘り起こしというお話でございますが、今年度もそうございましたが、現在の休んでいる団体についての活動状況と申しますか、復活と申しますか、また再開できないかというようなお話は教育委員会事務局の担当のほうとも情報を聞きながら、どういう状況でというようなお話も聞いてはございますが、ちょっと近々に、簡単には復活はできないのではないかなというようなお話で、何か町のほうで支援をいたしまして再開できるのであれば、何かいい手だてはないかなというのは継続して検討してまいりたいと思います。

今年度の軽米秋まつりの反省と申しますか、来年度に向けての話合いというのを、年末に、参加した団体の代表の方にお集まりいただきましてお話をしました。今年度のお祭りの際、実行委員会の際にも話が出た山車、それから行列の運行区間等についてのお話も出されまして、徳楽寺の前から御仮屋まで短縮した区間につきまして、山車団のほうで、ちょっとあそこを上るのが厳しいというお話もあって、今年度は短縮した形だったのですけれども、再度お話を伺ったところ、ほとんどの団体がやっぱり御仮屋まで行ったほうがいいのではないかなというお話がございまして、ちょっと厳しいと言っていた団体も、皆さんそうだというのであれば、うちも何とか向こうまで持っていく方向に進めますというお話をいただきましたので、令和6年度につきましては今のところ従来どおり、御仮屋までの区間で運行する方向で検討することということでお話し合いのほうはさせていただいております。

それから、やはり出ましたのが、行列もそうですし、山車団もそうなのですが、先ほどもお話のあった郷土芸能にしましても、参加する人員を集めるのが大変難しくなっている。その開催の仕方も含めて、当面は何とか町のほうでも様々町内に学校をはじめ参加していただくような呼びかけをしていくのは引き続きやっていきますけれども、だんだんには開催の仕方等も徐々には検討していかなければならないというふうなお話もされておりましたので、そちらにつきましても関係団体、参加団体等と意思疎通を図りまして、できるだけ縮小しないような形で、にぎやかなお祭りを運行したいなというふうにございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） いいです。

○委員長（上山 誠君） 茶屋委員。

○8番（茶屋 隆君） 関連してですけれども、お祭りについてですけれども、確かに人数が減って大変だと思います。もう山車団だけで相談していただいただけでは対応し切れない。やっぱり各地域の住民の方からも協力してくださいというふうなことで集まってもらって、そういうふうな話までやっていかなければ、いくら役場で検討していったってどうにもならないと思いますので、そこはやっぱりもう幅広く皆さんに声をかけてやっていかなければ大変だと思います。ただ山車団で何とかやってくれ、やってくれと言ったって、山車団で協力してそれを手伝ってくれと、そういうふうな働きかけをするようにやらなければいけないと思いますので、これからやっていくには。

あともう一つ、かるまい文化交流センターで去年は最初30分ぐらい早く集まって太鼓の共演をやりました。確かに見事です。山車の共演をあそこでやるべきか、それとも町の真ん中で時間帯を変えてやるのか、そういったことも検討していかなければ、やっぱり住民の方が見るには、あそこにも集まりますけれども、あそこよりは町の中のほうがいいのかなと思ったりもしますけれども、それは各山車団での相談になると思いますので、ぜひ盛り上がっていくようなことで考えていただければいいと思いますので、その辺を考えてはいかがでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） 今回の茶屋委員のご質問、ご提言でございますが、先ほども言いましたが、一番大きなのが参加する人数をそろえるのが困難だというお話でしたので、それについては様々な方策を一緒になって考えていきたいと思っております。

それから、今年度初めての試みであった山車の共演についても、この間の反省会と申しますか、話合いの中で出ましたけれども、取りあえずは来年度も宇漢米館での方向でいいのではないかと申すというふうなお話は出ておりましたが、こちら側だけで

はなく、向こう側、御仮屋側で集まったときもやったらいいのではないかというようなお話をされる方もございましたので、来年度実行委員会なり代表者会議の際にはもう一度確認をいたしまして、開催方法についてはもう少しやり方を考えていきたいと思っております。

○8番（茶屋 隆君） ありがとうございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○8番（茶屋 隆君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 地場産業振興費の関係ですけれども、サルナシの商品開発等、今回も新しい開発されているわけですけれども、これまたさるなし振興事業委託料ということは、サルナシに関してまだまだ新しい商品開発をしようとしているのかということ1点と。サルナシの実際の軽米町における生産量は、その商品等に追いついているのかなというところも含めてちょっとお伺いします。

あと、さるなしドリンクが今何かまた値上げして、1本150円だというふうに聞いていましたけれども、あの缶で150円といえば、果たしてどれだけの人たちが買うのかなと思ったりして。私のほうでは、団体では大会等の参加賞はほとんどさるなしドリンクを1人1本ずつおあげしていると、だから何千本というふうなのは消費をしているのですけれども、150円になってくるとちょっと考えないとならないなと思っているのですけれども。何かどんどん高くなってはいるのだけれども、生産量が追いつかないのかなという。それは、あるときさるなしドリンク買いに行ったら、今なくなったと、ちょっと販売を待ってくれと言われたというふうな店がありました。だから、時にそういうふうなことがあるのですよね。当然さるなしドリンクを買って大会の商品にしようと思っていると、いざ行ったらないというふうなことも今までもありました。だから、実際生産量が果たして追いついているのかなと。どんどんそうして新たな商品開発をして、何か今までの部分が影響しているというふうなところはないのかなと思ったりして、その辺のところはどのような状況になっているか教えていただければと思います。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ただいまのご質問についてお答えいたします。

さるなし振興の促進事業につきましては、新商品の開発ももちろん進めていくものではございます。具体的にどれをとというのは、今さるなしもっちが完成したばかりで、まだ具体案はないようではございますが、こちらにつきましては新商品の開発のほかに既存商品のサルナシ商品等、こちらの販売促進、首都圏等へ行ってのPR

等の経費についても組み込んだ委託料となっております。それから、サルナシの生産振興ということで、サルナシ買取りの際の買値価格への上乗せ等もこの委託料の中に入っております。

実際の生産量でございますが、年によって収量に変動はございますけれども、最近ですと5トンから7トン程度、この間で、最近はそんなに不作だというような年はございませんので、平均して6トン程度の収量があって、今のサルナシ製品を作る分につきましては十分間に合っていると。ある程度の在庫と申しますか、予備のサルナシ果実は冷蔵庫のほうで保管できているような状況となっております。ただ、大量にサルナシを使うような製品を開発して販売ということになりますと、ちょっと今の状況だと収量が間に合わないということになってきますので、そういう商品を開発するに当たりましては、原材料となるサルナシの生産増、収量のほうを増やす必要があるというふうに認識しております。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） いずれこの前のさるなしもっちと言いましたっけか、新しい商品、そのときに私参加できなかったのですが、テレビで見えていましたら、その一関の社長がインタビューの中では、これをどんどん進めて海外のほうにも販売促進を図っていきたいと。だから、もっともっと多く生産していききたいというふうな考え方なのだというふうに聞きましたけれども、今の話で果たしてサルナシの現在の軽米町の生産が追いつくのかなというふうなことを心配するわけですが、でも、いいことだとは思っているので、生産する農家の人たちの拡大というふうなのをどのようにして図っていくかという手だては必要だと思いますけれども、その辺のところはまだ何か積極性が感じられないのですけれども、その辺はどのようにお考えでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ただいまのご質問についてお答えいたします。

サルナシ商品の原材料となるサルナシの果実そのものの生産拡大というのは、いずれこの先必要になってくるというふうな認識ではございますが、現在のところでは取りあえず間に合っていると。ただ、実際に生産している方も高齢化していくこともございまして、現在やっている方の生産の拡大はちょっと厳しいのかなという部分もございまして、新たにお取り組みいただける方を探す方法が、必要性があるのだろうとは感じております。

実際に現在サルナシを生産されている方のお話を聞いたこともございますが、今作っている品種はちょっと手間がかかると申しますか、出来不出来が激しい果実だということで、できれば品種改良等も行なって、安定して収量が見込めるような品種

を作れないかというお話もいただいたことがございますので、それらも併せまして将来的には検討してまいりたいというふうに考えてございます。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） それでは、再生可能エネルギー推進室長、日山一則君。

○再生可能エネルギー推進室長（日山一則君） 先ほど江刺家委員のほうからご質問ありました商工業振興費の7節報償費、企業訪問謝礼品26万8,000円ということでした。こちらにつきましては、企業のほうを訪問する際のお土産代、あるいは訪問に至っては向こうでのちょっとしたコーヒー飲みながらとか、そういった形での面談しているということで、そういったものを含めて計上させていただきました。

なお、令和5年度におきましては3,456円、これまでの実績はお土産代として支出しております。

以上でございます。

○委員長（上山 誠君） これについてよろしいでしょうか。

○5番（江刺家静子君） はい。

○委員長（上山 誠君） では、ほかに質疑。

中村委員。

○6番（中村正志君） 軽米町観光協会補助金、コロナ禍前のほうに戻した金額にしたというふうな言い方をしていましたけれども、この観光協会の事業はいろいろあるかと思えますけれども、昨年といいますか、令和5年度と令和4年度あたりとの違いはどのように考えた予算編成だったのか、教えてください。

○委員長（上山 誠君） 産業振興課商工観光担当課長、輪達隆志君。

○産業振興課商工観光担当課長（輪達隆志君） ただいまのご質問にお答えいたします。

申し訳ございません。私もちょっと言い方が悪かったのだと思うのですが、予算的には令和4年度も令和5年度も同じようなイベントができるだけの予算のほうは組んでございましたけれども、結果的にコロナ禍で縮小されて、不用額がたくさん出てしまったというような形でございました。令和5年度のイベントにつきましても、コロナ禍前に近いような形でイベントを開催させていただきましたが、令和6年度につきましては、すっかり規制もなくなることでございますので、従来どおりのといいますか、コロナ前の規模のイベントは開催できるだけの予算を計上させていただきましたというつもりで言ったつもりなのですが、ちょっと言い方が悪かったのかと思います。申し訳ございません。予算計上的には、それほど大きくは変動はございません。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、7款を終わりました、8款土木費に移りたいと思います。

地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 8款土木費、1項土木管理費、資料のほうは100ページからとなります。1目土木総務費について説明させていただきます。

来年度の予算といたしましては3,845万4,000円を計上しております。今年度比で531万1,000円の減となっております。内容については職員の給料、事務費、各種団体負担金でございます。詳細については記載のとおりとなっております。減額となった主な理由としては、報酬、給料、職員手当等が減となったものでございます。

説明は以上です。

○委員長（上山 誠君） 1項の説明は終わりました。これに質疑ありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） ないようなので、では次に2項に移りたいと思います。2項道路橋りょう費。

地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 資料のほうは102ページとなります。2項の道路橋りょう費、1目道路橋りょう総務費になります。

来年度の予算といたしまして2,379万1,000円を計上しております。今年比で1,100万6,000円の増となっております。増額となった主な理由としましては、職員の給料、手当、共済費等が増となったものでございます。

また、12節の委託料でございますが、町道台帳補正業務委託料で来年度整備の延長が増となったもので、それに伴う委託料の増となっております。

続きまして、2目道路維持費について説明させていただきます。来年度は2億750万3,000円の予算を計上しております。今年度比で3,172万2,000円の増となっております。本予算につきましては、道路維持費、防犯灯管理費、道路等維持工事費、車両管理費の構成となっております。需用費、役務費、委託料、原材料費、公課費は例年のとおりでございます。増額となった主な要因としては、14節の工事請負費でございます。継続事業に加えまして、来年度町道岩崎外川目線舗装補修工事を追加計上して増となったものでございます。

17節の備品購入費ですが、これは冬期間の路面確保のため、省力化と適期に適

量を散布する自動融雪剤散布機を導入していましたが、導入から10年経過しまして老朽化が激しいということで、その更新を図るものでございます。

2目は以上です。

続きまして、104ページとなります。3目道路新設改良費について説明させていただきます。重点施策・主要事業等の6、共に支え合う安心・安全なまちづくりの3段目の町道整備でございます。来年度は1億3,614万1,000円を計上しております。今年度比で858万7,000円の増となっております。旅費、需用費、使用料及び賃借料については例年のとおりでございます。主な増減のあった箇所ですが、12節の委託料が今年度より1,000万3,000円の減となっております。増となったものは14節の工事請負費で1,902万5,000円の増となっております。これは工事を早急に進めまして、早期完成を目指していきたいという考えの下でございます。

3目は以上です。

続きまして、105ページ、4目橋りょう維持費について説明させていただきます。これも同じく重点施策・主要事業等の6、共に支え合う安心・安全なまちづくりの4段目の橋梁維持補修・点検事業でございます。来年度は1億890万円の計上です。今年度に対しまして1,450万円の増となっております。これは、道路メンテナンス補助事業を活用しまして進めていく事業でございます。増となった主な理由としましては14節工事請負費、今年度8,000万円に対して来年度9,600万円となっております。これは町道岩崎外川目線こぶし橋橋梁補修工事でございます。八戸自動車道に架かる歩道橋となっております。

4目は以上となります。

○委員長（上山 誠君） 2項の説明が終わりました。

質疑に入りたいと思います。質疑ありますか。

中村委員。

○6番（中村正志君） 102ページの公有財産購入費で町道用地取得費が100万円あるのですが、これは実際に具体的にどこということのがありますか。もしかして道路新設改良費のほうでも土地購入費とか補償金とかとあるのですが、新設の道路の計画があつてこういう予算にしているのか、この辺の内容を教えてください。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 中村委員の質問にお答えします。

102ページの道路橋りょう総務費のほうの公有財産購入費ですが、これは従来から町のほうでも町道の用地に未登記の部分がありまして、その未登記の部分につきまして売買が発生したもの、家族的に相続していったものについては無償提供し

ていただいておりますが、もし未登記の部分が第三者のほうに買収になった場合に、同意が得られない場合に土地の購入も検討するための費用となっております。

説明は以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） というのは、かつては何か無償で町に土地を提供して町道を造ってもらったとかというふうなことの何か弊害というか、そういうふうなことでこういうことが起きたということでしょうか。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 中村委員の質問にお答えします。

昭和44年に国土調査が始まりまして、昭和44年以降、平成3年まで皆様から土地を無償提供していただいて道路整備、車社会というのもありまして道路整備のほうを急いで進めておりまして、その土地については同意を得て進めておったのですが、道路の潰れ地に関して登記がなされていない箇所がありますので、同じ委託料の3番目のほうに計上しております町道用地調査確認業務委託料というのは、現在町道用地としてなっているのですが、法務局の図面のほうにその道路分が反映されていない部分の調査をしているものです。その部分については、ほとんど無償提供でやって、寄附で道路を進めたのですが、それ以後、第三者にもし売買になった場合、ちょっと2年ぐらい前に事例があったのですが、第三者に売買になった場合は道路も含めて第三者に買収になっていると、なかなか昔古い方が町道として協力したのですが、その後まるきり関係ない方が購入すると、道路も含めて購入した形になっておりまして、その購入した部分についての道路、やっぱり町の道路用地として登記する際に、無償ではなかなか同意が得られないための購入費となっておりますので。ほぼ全域的には無償提供でお願いして進めております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○6番（中村正志君） 分かりました。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑ありますか。

江刺家委員。

○5番（江刺家静子君） 今の件なのですが、道路台帳補正業務委託料とか、これで今の地権者に税金増とか、そういうことで変更が生じるということはあるですか。調査によって。固定資産税を今までずっと払ってきたのだけれども。

○委員長（上山 誠君） 税務会計課総括課長、古舘寿徳君。

○税務会計課総括課長（古舘寿徳君） ただいまのご質問にお答えいたします。

税務会計課のほうで課税しております固定資産に関しましては、登記簿の面積になっております。今道の分ということで、実際に売買が発生して税額が変わったと

いうのはございます、事例として。それについても、実際に登記が動きませんと私どものほうは面積等の確定ができないということですので、地域整備課のほうで行いましたその登記等によって税額が変更になるという部分はあるということでございます。

以上です。

○委員長（上山 誠君） よろしいですか。ほかに質疑。

田中委員。

○1番（田中祐典君） 103ページの委託料のことですが、この前質問した支障木とか、草刈りを委託というところがありますが、それは業者のみの委託料なのでしょうかということをお伺いしたいです。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 103ページ、12節委託料の町道等法面・路肩支障木伐採、草刈委託料ということで500万2,000円の部分なのですが、そうです。町内の土木業者のほうに委託する金額となっています。これは交通量の多い箇所、危険な場所、そういう箇所を重点的に土木業者のほうにお願いしております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

○1番（田中祐典君） はい。

○委員長（上山 誠君） ほかに質疑。

中村委員。

○6番（中村正志君） 道路新設改良費の関係ですけれども、工事請負費のほうは多分これみんな継続事業かなと思っていましたけれども、ただ委託料のほうを見ますと、町道山田1号線道路予備設計業務650万円というのがありますけれども、では今年の何かが終われば、次の新設は町道山田1号線ということで捉えていいのか。そのための予備設計なのか、そこをちょっと教えてください。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 中村委員の質問にお答えします。

町道山田1号線につきましては、幅員が狭く蛇行している関係で、人家が連檐している箇所でありまして、最近の雨の降り方によって路面が流出して、ちょっと通行できなくなる、不能な箇所というか、奥のほうに行けなくなった事例がございまして、町のほうで最近の雨の降り方といいますか、集中的に降って路面の流出が激しい路線になっております。冬期間の除雪に支障があること、緊急車両の支障もあるということで、今回予備設計ですので、地元と合意形成を図りながら次期の事業として進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○委員長（上山 誠君） 中村委員。

○6番（中村正志君） ということは、新たに道路を新設するというのではなく、現在ある町道を調査して、狭いので、狭ければ拡幅するというような形での工事を考えているというふうに理解していいですか。

あと、町道山田1号線といえぼどの辺だかというのを、口頭で言える範囲で。

○委員長（上山 誠君） 地域整備課環境整備担当課長、神久保恵蔵君。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） 中村委員の質問にお答えします。

仲軽米のほうから上がっていきます旧ごみ焼却炉がありまして、それをずうっと行きますと、山田の部落というか、お墓が見えてくるのですが、橋があるのですが、今はあるかないか分からないのですが、山田の獅子踊りとかという看板があったところがあったのです、橋の手前に。その手前を左に行った町道になりますので、その路線となります。ちょっと分かりにくい説明で申し訳ありませんが。

以上です。

○6番（中村正志君） そこを調査して、拡幅するかしないかということ。

○地域整備課環境整備担当課長（神久保恵蔵君） はい。

○6番（中村正志君） 分かりました。

○委員長（上山 誠君） よろしいでしょうか。

ほかにありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

◎散会の宣告

○委員長（上山 誠君） ないということで、では本日3時になりましたので、ここまでということにしまして、散会したいと思います。

次回の開会は月曜日、10時から再開したいと思います。

〔「どこまで終わったかしゃべらないと。終わったところをしゃべっておかないと戻るから」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 終わったところは……

〔「どこから始めるか」と言う者あり〕

○委員長（上山 誠君） 8款3項から始めます。よろしくお願ひします。ご苦労さまでした。

（午後 2時59分）